

2012 年度
量的社会調査実習報告書

大学生の日常生活に関する調査

2013 年 3 月

成城大学文芸学部
社会調査士資格課程運営委員会

2012 年度
量的社会調査実習報告書

大学生の日常生活に関する調査

2013 年 3 月

成城大学文芸学部
社会調査士資格課程運営委員会

はしがき

本報告書は、2012年度成城大学文芸学部の授業科目「量的社会調査実習」の成果報告書である。量的社会調査実習は、「社会調査士」資格課程の認定科目のなかで最終科目に位置づけられている。調査計画を立案・実施しデータ解析・結果の解釈を経て、報告書の形式で新たな知見と調査協力者への結果の公表をすることを目的としている。

2012年度は、大学生の日常行動をテーマに本学学生に質問して調査を実施した。大学生活を送る上で大きな比重を占めるものの一つにアルバイトの存在がある。履修学生によると、高校生のアルバイトは校則で禁止されていたり、高校生は採用しない職場もあるが、大学生になるとこれらの制約がなくなり、誰もがアルバイトをするようになるという。アルバイトをすると収入や社会経験が得られるという調査知見から自立につながるという見解の一方で、アルバイトをしても自立とはかけ離れている場合も少なくない。ここからアルバイトの目的には、収入獲得などに加えて皆と同じという安心感の獲得があり、アルバイトをしていないのは大学生にもかかわらず自立していない人として見られたり、アルバイトで収入を得る必要がない異色種として見られるのを避ける意識が働くためではないかという議論に至った。そこで、問題をアルバイトから日常生活に拡大し、皆と同じでなければ取り残されるという視点から調査票を作成し、夏季休暇直後の2週間に調査票の配布・回収を行った。

本報告書では履修生が分担して分析結果を執筆した。「同一化行動尺度の作成と検討」では取り残されないための行動を測定する項目の潜在要因について分析結果をまとめた。「性差からみる大学生の同調行動の違いについて」では他者と同じようにふるまうことの男女差を検討した。「個人の同調行動に影響を与える要因について」では多くの人々が重要視する行動と自分の行動の隔たりについてそれらを生む要因ごとに結果をまとめた。「大学生の集団行動について」では集団に所属することへの欲求の程度と行動のスタイルから4タイプを作成し、さまざまな特性について比較・検討した。

データの解析に際し統計的には十分とは言えない部分も残しており、結果の解釈には十分注意をしたつもりである。また、他者と同じようにふるまうこと、取り残されないこと、はじかれることなどの用語や概念をさらに吟味する課題も多く残している。

調査協力者への調査結果公表のため、「大学生の日常生活に関する調査」の結果を掲載した本報告書は、2013年4月以降成城大学のホームページ上で閲覧できるよう予定している。

2013年2月 鈴木 靖子

大学生の日常生活に関する調査

はしがき

同一化行動尺度の作成と検討 周りと同じことをしなければはじかれるのか

大塚 薫

1 問題	1
2 調査方法	2
3 結果	4
4 考察	10
引用文献	12

性差からみる大学生の同調行動の違いについて

白井裕里子

1 はじめに	13
2 方法	13
3 結果	15
4 考察	17
引用文献	20

個人の同調行動に影響を与える要因について

原田 萌

1 はじめに	21
2 方法	21
3 結果	22
4 考察	28
引用文献	31

大学生の集団行動について 同調する思考と行動の違いについての検討

横山 夕姫

1 はじめに	32
2 方法	32
3 結果	34
4 考察	38
引用文献	39

資料	41
執筆者一覧	49

同一化行動尺度の作成と検討

周りと同じことをしなければはじかれるのか

大塚 薫

1 問題

文部科学省は2012年に国立、公立、私立の小学校6,764,638名、中学校3,569,031名、高等学校3,359,324名及び特別支援学校126,857名の生徒13,819,850名を対象としたいじめ緊急調査を実施している。これによると、いじめの態様についての回答は多い順に「冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が66.8%、次いで「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」が25.3%、「仲間はずれ、集団による無視をされる」が24.7%、「ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする」が11.1%、「金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする」が11.0%などの結果が示されている。いじめ調査からわかることは、多くの人が日常生活でいじめのような周りからはじかれる状況を見聞きしたり経験したりしているかもしれないということである。いじめの態様にあるような悪質なものではないにしろ、日常生活で「これをしたら、周りからはじかれるのではないか」という心配は誰にでもあるのではないのか。しかし、何をしたらはじかれるのか、必ずしもそこに明確な基準があるわけではない。そんな時に、周りと同じようにふるまうことで、はじかれることはないかと安心するのではないかと考える。本報告書は、このような周りと同じことをしなければはじかれるという同一化行動について調査する。

これまで、周りと同じことをしなければはじかれるという意識は、葛西・松本(2010)と玉上(2011)の同調行動の調査がある。まず、葛西・松本(2010)では「仲間へ積極的に同調しようとする思い(仲間への同調)」と「特性不安」の間、「自分が我慢して相手に合わせようとする思い(自己犠牲・追従)」と「特性不安」の間に弱い正の相関が示されている。この結果について、「日常生活の場合において不安が高い場合、友人への同調行動によって不安を低減させているのではないか」「自分が我慢してでも友人に合わせることによって、その集団に所属しようとしているのではないか」という見解を示し、「同調行動を行なう青年は他者からどう思われているのかを気にしている」とも指摘している。次に、玉上(2011)は、「青年期の友人関係における同調行動選択場面では、所属欲求の高い人、相互協調的自己観の高い人、そして自己受容の低い人が同調行動を選択しやすい」ことを示唆している。これらの結果から、同調行動には他者の目を気遣い、自分を犠牲にしても友人にあわせて、所属する集団にとどまろうとする傾向があることがわかる。そこで、周りと同じことをしなければはじかれる同一化行動について、所属欲求尺度、同調志向尺度、私生活主義尺度、公的自意識尺度、承認欲求尺度を測定し、妥当性を検討する。

「人は社会的な絆を形成し、社会的に受容されたい」という所属欲求により、内集団に所属する所属欲求の高い者は、安心感や幸福感を得る一方、内集団からの排除は、ストレ

スが高まるであろう。そこで、所属欲求の高い者は、「集団からはじかれるのではないか」という社会的に拒絶されるという脅威が高まると対人関係の強化をはかり、はじかれないようにふるまうと考える。何をしたらはじかれるのかということには、明確な基準がない場合が多いため、多くの人が重要だと考えるようなふるまいをする、すなわち同一化行動を取ると考える。

同調志向の情報の影響とは「他者からより正確な情報を得ようという動機から生じる同調」である。はじかれない行動の基準を他者からの情報に求めるならば、同調志向と他の人と同じようにふるまうのが重要だと多くの人が考える行動との間に関連があると考えられる。

私生活主義とは「自分の感情や考え、主張を再優先する」というものである。所属欲求が高く集団にとどまることを優先して同一化行動をとるならば、私生活主義による自分の主張は低くなると考える。

公的自意識は「自分の外見や他者に対する行動など、外から見える自己の側面に注意を向ける」というものであり、公的自意識が高い場合、人の前では人と同じようにふるまうと考える。多くの人と同じように考えたり行動したりしているかどうか周りの人にわかる場合に同調する、つまり、公的自意識は以上のように同一化行動の周りから見える同調要因に影響すると考える。

承認欲求とは「人から肯定的な評価を受けたい、あるいは人に悪く評価されるのを避けたい」という欲求であり、円満な社会生活をするために周囲との同一化行動をとると考える。

本調査では、以下の2点から同一化行動尺度を作成・検討する。

仮説1「社会的にはじかれないためには、多くの人がとるであろう行動を自分もとる」

仮説2「集団にとどまるためには、人に見える所では人と同じようにふるまう」

2 調査方法

2.1 調査手続

1) 調査手続き

本調査では、以下の手続きで質問紙調査を実施した。

調査実施期間 2012年9月27日～10月10日

調査対象者 成城大学の学生。ただし、大学院生は対象外とした。

2) 調査方法

層化の基準を「学部」と「性別」として全学生数に対する各層の構成比を求めた。それに比例した調査数を各層に割り当て、合計393名を対象に留置調査法（自記式）による回答を依頼した。有効回答数は186であり、回収率は47.3%であった。（調査票配布数と層別回収数については資料1を参照。）

2.2 分析項目

本研究に用いられた調査項目は次の通りである。

1) 周囲との同一化行動

日常のさまざまな事柄について、周囲との同一化行動をとるのかを測定する項目である。具体的な質問項目は、「友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う」、「友人にあわせて部活動・サークルに入部する」など14項目であり、それぞれの項目に対して「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」、「あてはまらない」の4件法で回答を求めた。「あてはまる」を4点、「あてはまらない」を1点として得点化した。

2) 他者による同一化行動の重要度

1)で用いた14項目について多くの人ほどの程度重要だと評価するかを問う項目である。それぞれの項目に対して「大変重要である」、「ある程度重要である」、「あまり重要ではない」、「重要ではない」の4件法で回答を求めた。「大変重要である」を4点、「重要ではない」を1点として得点化した。

3) 所属欲求尺度 (the Need to Belong Scale) 邦訳版

「人は社会的な絆を形成し、社会的に受容されたいという基本的欲求を持つ」という所属欲求の個人差を測定する小林、谷口、木村、Leary (2006)の所属欲求尺度 (the Need to Belong Scale) 邦訳版を用いた。「もし他の人が私を受け入れてくれそうになくても、気にしないようにしている (逆転項目)」、「他の人に避けられたり拒まれたりしないように努めている」、「他の人が気にかけてくれるかどうか、めったに心配しない (逆転項目)」などの10項目について、「かなりあてはまる」から「あてはまらない」の5件法で回答を求め、「かなりあてはまる」を5点、「あてはまらない」を1点として得点化した。

4) 私生活主義；自分の感覚や実感の重視

「自分の感情や考え、主張を再優先する傾向」を測定する久世他 (1987)の私生活主義尺度を用いた。「自分で納得いかないことはしたくない」、「何事も自分で確かめなければ気がすまない」、「自分の気持ちをいつわって行動するのはいやだ」など「自分の感覚や実感の重視」の11項目について「非常に賛成」、「賛成」、「賛成とも反対ともいえない」、「反対」、「非常に反対」の5件法で回答を求め、「非常に賛成」を5点、「非常に反対」を1点として得点化した。

5) 同調志向尺度；情報的影響

「他者からより正確な情報を得ようとの動機から生じる同調」を測定する横田・中西

(2010)の同調志向尺度を用いた。「外食に行くときには、情報誌や口コミを参考にする」、「自分の意見が他者と一致すると、とても安心する」、「見る映画を決めるときには、すでにその映画を見た人の評判を参考にする」など「情報的影響」の10項目について「当てはまる」、「少し当てはまる」、「どちらでもない」、「あまり当てはまらない」、「当てはまらない」の5件法で回答を求め、「当てはまる」を5点、「当てはまらない」を1点として得点化した。

6) 自意識尺度；公的自意識

「自分の外見や他者に対する行動など、外から見える自己の側面に注意を向ける程度の個人差」を測定する菅原(1984)の自意識尺度を用いた。「自分が他人にどう思われているのか気になる」、「世間体など気にならない(逆転項目)」、「人に会う時、どんなふうにするまえば良いのか気になる」など「公的自意識」の11項目について「非常にあてはまる」、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「どちらともいえない」、「ややあてはまらない」、「あてはまらない」、「全くあてはまらない」の7件法で回答を求め、「非常にあてはまる」を7点、「全くあてはまらない」を1点として得点化した。

7) 日本版 MLAM 承認欲求尺度

「人から肯定的な評価を受けたい、あるいは人に悪く評価されるのを避けたいという欲求」を測定する植田・吉森(1990)の日本版 MLAM 承認欲求尺度を用いた。「私は、人を喜ばせるために、自分の意見や行動を変える」、「私は、人とうまくやったり好かれるために、人が望むように振舞おうとする傾向がある」、「私は、励ましがなければ自分の仕事を続けることが困難である」など20項目について「非常にあてはまる」、「わりとあてはまる」、「ややあてはまる」、「わりとあてはまらない」、「全くあてはまらない」の5件法で回答を求め、「非常にあてはまる」を5点、「全くあてはまらない」を1点として得点化した。

8) 普段の行動

回答者の普段の行動を「グループで行動することが多い」と「ひとりで行動することが多い」のどちらかに回答を求めた。

9) 個人属性

回答者個人の基本的属性として、「性別」、「学部」、「学年」を質問項目とした。

3 結果

3.1 各尺度の作成

1) 周囲との同一化行動

周囲との同一化行動を問う14項目に対する回答データをもとに主因子法による因子分析

を行った。因子抽出後の共通性が著しく低い 1 項目を除外し、バリマックス回転後の因子パターンの単純性・解釈可能性の観点から、3 因子解を採用した。そして、各々の因子に高い因子負荷量を持ち、かつ当核因子以外への因子負荷量が低い項目をそれぞれの因子の代表項目として選択し下位尺度を構成した。第 1 因子は「友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う」、「友人が染めたので、髪を染める」などから、「個人の好み（以下、個人好み）」と命名した。第 2 因子は「友人にあわせて部活動・サークルに入部する」、「大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する」などから、「他人と共有すること（以下、他人共有）」と命名した。第 3 因子は項目が 2 項目と少ないため、前者 2 尺度のみを分析対象として用いることとした。第 1、第 2 因子各々に高い負荷量を持ち、それぞれの因子を代表する項目を加算して合計得点を求め、「個人好み得点」「他人共有得点」とした。バリマックス回転後の因子負荷量および各下位尺度の信頼性係数を表 1 に示した。

表1 周囲との同一化行動の因子分析

	個人好み	他人共有	
10)友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	.743	.065	.071
3)友人が染めたので、髪を染める。	.510	.261	.270
12)友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	.388	.201	.061
1)外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	.368	.136	.133
11)授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	.366	.070	.058
14)友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見ると。	.326	.145	.296
8)友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	.195	.684	.127
9)大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	.360	.530	.106
4)友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	-.001	.445	.050
7)友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	.215	.303	.252
13)部活動・サークルなどで何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	.149	.282	.035
5)友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	.164	.038	.646
2)友人の間でSNS(人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のWebサイト)が流行っていたので、自分も始める。	.061	.121	.596
説明率	12.350	22.284	30.418
係数	.628	.611	.578

2) 他者による同一化行動の重要度

他者による同一化行動の重要度を問う 14 項目に対する回答データをもとに主因子法による因子分析を行った。バリマックス回転後の因子パターンの単純性・解釈可能性の観点から、2 因子解を採用した。そして、各々の因子に高い因子負荷量を持ち、かつ当核因子以外への因子負荷量が低い項目をそれぞれの因子の代表項目として選択し下位尺度を構成した。第 1 因子は「友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける」、「部活動・サークルなどで何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持す

る」などから、「コミュニティ持続に影響を与える（以下、持続影響あり）」と命名した。第2因子は「友人が染めたので、髪を染める」、「友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う」などから、「コミュニティ持続に影響しない（以下、持続影響なし）」と命名した。第1、第2因子各々に高い負荷量を持ち、それぞれの因子を代表する項目を加算して合計得点を求め、「持続影響あり得点」「持続影響なし得点」とした。バリマックス回転後の因子負荷量および各下位尺度の信頼性係数を表2に示した。

表2 他者による同一化行動の重要度の因子分析

	持続影響あり	持続影響なし
7)友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	.765	.110
13)部活動・サークルなどで何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	.697	.149
9)大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	.659	.303
8)友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	.654	.315
6)誰かと歩く時、歩く速度が一緒にいる友人によって変わる。	.580	.139
2)友人の間でSNS(人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のWebサイト)が流行っていたので、自分も始める。	.547	.378
14)友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見ると。	.492	.456
3)友人が染めたので、髪を染める。	.159	.791
10)友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	.246	.708
12)友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	.175	.674
4)友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	.103	.572
5)友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	.521	.553
1)外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	.262	.505
11)授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	.296	.455
説明率	24.047	47.419
係数	.853	.838

3) 所属欲求尺度 (the Need to Belong Scale) 邦訳版

小林ら(2006)の所属欲求尺度(the Need to Belong Scale)邦訳版の10項目の合計得点を求めて、所属欲求得点とした。信頼性係数は.776であった。

4) 私生活主義；自分の感覚や実感の重視

久世ら(1987)の私生活主義の中から、「自分の感覚や実感の重視」を構成する11項目の合計得点を求めて、私生活主義得点とした。信頼性係数は.773であった。

5) 同調志向尺度；情報的影響

同調志向尺度の情報的影響を構成する10項目に対する回答データをもとに因子分析を行った。固有値の減衰状況から1因子構造と判断し、10項目の合計得点を求めて同調志向得

点とした。1 因子解を指定して因子分析を行ったときの因子負荷量および信頼性係数を表 3 に示した。

表3 同調志向尺度の因子分析

9)私は、すぐに重要な決定をしなければならないとき、自分の判断の正しさを確認するために他人の行動を参考にする。	.708
3)見る映画を決めるときには、すでにその映画を見た人の評判を参考にする。	.606
4)授業を履修する際には、その授業の内容などの情報を他の人々から得て決める。	.568
7)選挙など、政治的な判断をする際には親の意見に影響を受ける。	.488
8)自分の好きな服でなくても、流行に合わせた服を着てしまうだろう。	.471
6)周りの人々が信号無視をしていたら自分も渡っても安全だと思う。	.454
2)自分の意見が他者と一致すると、とても安心する。	.442
10)グループでまとまった意見は個人の意見よりも正しいことが多い。	.403
1)外食に行くときには、情報誌や口コミを参考にする。	.281
5)グループに従うくらいなら、むしろ独立した方がよい。	-.197
説明率	23.320
係数	.604

6) 自意識尺度；公的自意識

菅原(1984)の自意識尺度の中から、公的自意識を構成する 11 項目の合計得点を求めて、公的自意識得点とした。信頼性係数は.869 であった。

7) 日本版 MLAM 承認欲求尺度

植田ら(1990)の日本版 MLAM 承認欲求尺度の 20 項目の合計得点を求めて、承認欲求得点とした。信頼性係数は.719 であった。

8) 同一化行動・他者による同一化行動の重要度因子と個人特性の各因子との関連

周囲との同一化行動の 2 因子、他者による同一化行動の重要度の 2 因子と個人特性の各因子の合計得点の値がとり得る最大値、最小値、中間値を表 4 に示した。

所属欲求尺度、私生活主義、同調志向尺度、自意識尺度、承認欲求尺度、周囲との同一化行動 2 因子、他者による同一化行動の重要度 2 因子の関連を調べるために相関分析を行い、その結果を表 5 に示した。

表4 周囲との同一化行動、他者による同一化行動の重要度と個人特性各因子の値のレンジ

	項目数	評価 カテゴリー数	最小値	中間値	最大値
個人好み	6	4	6	15	24
他人共有	5	4	5	12.5	20
持続影響あり	7	4	7	17.5	28
持続影響なし	7	4	7	17.5	28
所属欲求	10	5	10	30	50
私生活主義	11	5	11	33	55
同調志向	10	5	10	30	50
自意識	11	7	11	44	77
承認欲求	20	5	20	60	100

表5 周囲との同一化行動、他者による同一化行動の重要度、所属欲求、私生活主義、同調志向、自意識、承認欲求の各因子間の相関係数

	他人共有	持続影響 あり	持続影響 なし	所属欲求	私生活 主義	同調志向	自意識	承認欲求
個人好み	.449 **	.236 **	.322 **	.331 **	-.179 *	.386 **	.174 *	.335 **
他人共有		.327 **	.179 *	.370 **	-.263 **	.374 **	.228 **	.416 **
持続影響あり			.613 **	.220 **	-.056	.244 **	.200 **	.231 **
持続影響なし				.083	-.038	.234 **	.095	.210 **
所属欲求					-.255 **	.295 **	.612 **	.503 **
私生活主義						-.092	-.140	-.244 **
同調志向							.326 **	.537 **
自意識								.556 **

**p<.01, *p<.05

「個人好み」では、「他人共有」(r=.449)、「持続影響あり」(r=.236)、「持続影響なし」(r=.322)、「所属欲求」(r=.331)、「同調志向」(r=.386)、「自意識」(r=.174)、「承認欲求」(r=.335)との間に有意な正の相関、「私生活主義」(r=-.179)との間に有意な負の相関が見られた。「他人共有」では、「持続影響あり」(r=.327)、「持続影響なし」(r=.179)、「所属欲求」(r=.370)、「同調志向」(r=.374)、「公的自意識」(r=.228)、「承認欲求」(r=.416)との間に有意な正の相関、「私生活主義」(r=-.263)との間に有意な負の相関が見られた。「持続影響あり」は、「持続影響なし」(r=.613)、「所属欲求」(r=.220)、「同調志向」(r=.244)、「公的自意識」(r=.200)、「承認欲求」(r=.231)との間に有意な正の相関が見られた。「持続影響なし」は、「同調志向」(r=.234)、「承認欲求」(r=.210)との間に有意な正の相関が見られた。

3.2 各個人特性の程度別同一化行動の得点の比較

所属欲求、私生活主義、同調志向、公的自意識、承認欲求の個人特性の程度による同一

性行動の2因子(個人好み、他人共有)の合計得点の違いを調べるため、以下の変数を作成した。

所属欲求高群・低群

所属欲求得点の平均値を求め、それより高い場合を所属欲求高群(N=86)、低い場合を所属欲求低群(N=95)とした。無回答は分析から除外した。

私生活主義高群・低群

私生活主義得点の平均値を求め、それより高い場合を私生活主義高群(N=86)、低い場合を私生活主義低群(N=93)とした。無回答は分析から除外した。

同調志向高群・低群

同調志向得点の平均値を求め、それより高い場合を同調志向高群(N=100)、低い場合を同調志向低群(N=82)とした。無回答は分析から除外した。

公的自意識高群・低群

公的自意識得点の平均値を求め、それより高い場合を公的自意識高群(N=90)、低い場合を公的自意識低群(N=86)とした。無回答は分析から除外した。

承認欲求高群・低群

承認欲求得点の平均値を求め、それより高い場合を承認欲求高群(N=88)、低い場合を承認欲求低群(N=90)とした。無回答は分析から除外した。

1) 各個人特性の高群・低群による個人好み得点の比較

5つの尺度の高群と低群による個人好み得点の違いについてt検定を行い結果と各群の平均値を表6に示した。所属欲求、同調志向、承認欲求の高群と低群で有意な差が見られた。

表6 周囲との同一化行動:個人好み得点の平均値

	高群	低群	t値
所属欲求	10.512	8.947	-3.726 ***
私生活主義	9.488	9.903	0.970
同調志向	10.690	8.622	-5.317 ***
自意識	10.044	9.244	-1.910
承認欲求	10.659	8.833	-4.444 ***

***p<.001, **p<.01, *p<.05

2) 各個人特性の高群・低群による他人共有得点の比較

5つの尺度の高群と低群による他人共有得点の違いについてt検定を行い、結果と各群の平均値を表7に示した。所属欲求、私生活主義、同調志向、公的自意識、承認欲求の高群と低群で有意な差が見られた。

表7 周囲との同一化行動:他人共有得点の平均値

	高群	低群	t値
所属欲求	11.153	9.516	-3.903 ***
私生活主義	9.779	10.815	2.378 *
同調志向	11.273	9.329	-4.761 ***
自意識	10.787	9.907	-2.091 *
承認欲求	11.460	9.344	-5.166 ***

***p<.001, **p<.01, *p<.05

4 考察

2つの仮説から同一化行動尺度の信頼性と妥当性を検討する。

4.1 仮説1 社会的にはじかれなために多くの人がとるであろう行動を自分もとる

関連の結果、同一化行動2因子と同調志向の間、他者による同一化行動の重要度と同調志向の間に、正の相関がみられた。これにより、個人の好みにかかわる行動、他人と共有することにかかわる行動で他者と同じようにふるまうほど、他者からより正確な情報を得ようと同じ行動をする傾向が高いことがわかる。また他者による同一化行動の重要度では、コミュニティ持続に影響がある行動、コミュニティ持続に影響がない行動で他者と同じようにふるまうことを多くの人が重要だと認識する程度が高いほど、他者からより正確な情報を得ようと同じ行動をする傾向が高いことがわかる。従って、社会的にはじかれなために、何をしたらはじかれるのかということには、明確な基準がない場合が多いため、他者からより正確な情報を得ようと同じ行動をする、つまり多くの人が重要だと考える行動を、自らもとることがわかる。これらの結果から仮説1が支持された。

4.2 仮説2 集団にとどまるためには人に見えるところでは人と同じようにふるまう

関連の結果、同一化行動の他人共有と公的自意識、所属欲求の間に、正の相関があった。同一化行動の他人共有と私生活主義の間に、負の相関があった。これにより、外から見える自己の側面により注意を向け、集団に所属することへの意識が強く、自分の考えや主張の優先度が低いほど、他人と共有することにかかわる行動で他者と同じようにふるまう傾向が高いことがわかる。t検定の結果、同一化行動の他人共有得点は、所属欲求高群と私生活主義の低群で平均値が高かった。これは集団に所属することへの意識が強く、自分の考えや主張の優先度が低いほど他人と共有することにかかわる行動で他者と同じようにふるまう

まう程度が高いことを示している。従って、集団にとどまるためには、他人と共有することにかかわる行動、つまり多くの人と同じように考えたり、行動したりしているかどうか周りの人にわかる場合に、人と同じようにふるまうことがわかる。これらの結果から仮説 2 が支持された。

4.3 尺度の信頼性、妥当性と問題点

1) 同一化行動尺度、他者による同一化行動の重要度尺度の信頼性

同一化行動尺度 2 因子の信頼性係数を算出したところ、個人好み.628、他人共有.611 であり、信頼性が低いことから内的一貫性が十分とは言えない。各因子を構成する項目の内容の等質性が十分ではないことから、分析結果の解釈には注意を要する。従って、同一化行動については、一定の水準の信頼性を持っていることを、今回示すことができなかった。

他者による同一化行動の重要度尺度 2 因子の信頼性係数を算出したところ、持続影響あり.853、持続影響なし.838 であり、内的一貫性があると言える。他者による同一化行動の重要度尺度として一定の水準の信頼性を持っていることが示された。

2) 同一化行動尺度、他者による同一化行動の重要度尺度の妥当性

同一化行動尺度、他者による同一化行動の重要度尺度と各特性との関連により仮説 1 と仮説 2 とともに支持された。承認欲求と同調行動との関連について、葛西・松本（2010）の調査結果では、同調行動と演技性承認欲求との間に正の相関があり、この結果について、他者に認められることが友人関係を円滑にする方法ゆえ自分の思いとは異なる同調行動をする、自分を犠牲にして思いとは異なることをして相手から認められたいという見解を示している。本調査でも、同一化行動と承認欲求の間に有意な正の相関がみられ、葛西らと同様の結果が得られたことから、はじかれたいための行動は他者に認められることで成立していると考えられるのではない。

3) 問題点

作成した周りと同じことをしなければはじかれるという同一化行動の独自性について、他者からより正確な情報を得ようとの動機から生じる同調である同調志向尺度との概念的な区別に懸念がある。作成した項目では、同一化行動の独自性である、周りから「はじかれる」という動機から周りと同じことをするという特徴をうまく反映することができなかった。「はじかれる」ということに関しては、「社会的排斥」を測定する項目をさらに加えることが必要かもしれない。押見（2010）によると、社会的排斥は「他者や集団から仲間外れや除け者にされたり、継続を望んでいる関係が一方向的に打ち切られたりする現象」である。例えば、同一化行動の「部活動・サークルなどで何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する」という項目に関しては、部活動・サークルなどで何か決め事をする際「仲間外れにされないために」自分の考えよりも多数派の意見を支持すると

いうことを加えることで、同調志向尺度と異なることを示すことができるであろう。このように、今後、同一化行動尺度の項目として、社会的排斥を測定する項目を検討することが、周りと同じことをしなければはじかれるという意識を研究する上で望まれる。

引用文献

- 葛西真記子・松本麻里 2010 青年期の友人関係における同調行動：同調行動尺度の作成
鳴門教育大学研究紀要, 25, 189-203
- 小林知博・谷口淳一・木村昌紀・Leary, M. R 2006 所属欲求尺度 (the Need to Belong Scale) 邦訳版作成の試み 日本心理学会大会発表論文集, 70,220
- 久世敏雄・宮沢秀次・二宮克美・和田実・後藤宗理・浅野敬子・宗方比佐子・大野久・内山伊知郎・鄭暁斉 1987 現代青年の社会意識に関する研究 名古屋大学教育学部紀要 社会心理学科 ,34,25 39.
- 文部科学省：いじめ問題に関する児童生徒の実態把握について（別添1）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/11/__icsFiles/afieldfile/2012/12/09/1328532_02_1.pdf（2013年1月30日）
- 文部科学省：平成24年度学校基本調査の速報について（報道発表資料）
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/houdou/__icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1324976_01.pdf（2013年1月30日）
- 押見輝男 2010 社会的排斥についての研究ノート：将来の社会的排斥の診断的予言 立教大学心理学研究,52,21-31
- 菅原健介 1984 自意識尺度 (self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究,55,184 188.
- 玉上詩織 2011 青年期における同調行動選択：所属欲求、相互独立・相互強調的自己観、自己受容の影響
- 植田智・吉森謙 1990 日本版 MLAM 承認欲求尺度作成の試み 広島大学教育学部紀要 1,39,151 156.
- 横田晋大・中西大輔 2010 同調志向尺度の作成：規範的影響と情報的影響 広島修大論, 51, 2, 23-36.

性差からみる大学生の同調行動の違いについて

白井裕里子

1 はじめに

大学生の多くは学生の間でアルバイトを行う、あるいは経験していると考えられる。実際に、本大学で行われた学生実態調査（2009）では学生の約8割がアルバイトを行っている、という結果が出ている。しかし、そのアルバイトをすることは金銭的、社会的自立を目的としたものだけではなく、周囲の学生がアルバイトを始めたから、という理由で行っているのではないか。つまり周囲との同調意識からアルバイトを始めているのではないかと考える。小平ら（2004）は大学生のアルバイトについて、調査結果より、自らアルバイトをしようとして始めたケースではその理由として「お金がほしい」ためにアルバイトを始めている人が大半を占めているが、一方で他人から依頼されて始めたケースでは、友人や先輩からの誘いによって、あるいは「アルバイトをしていないと不安になる」ためにアルバイトを始めていた。この「アルバイトをしていないと不安になる」は周囲がアルバイトを始めている、という環境の中で同調志向が高まっているのではないだろうか。この同調行動について、横田ら（2010）は規範的影響と情的影響を弁別する同調の志向性を測定する「同調志向尺度」を作成し、その信頼性と妥当性の確認を行っている。

そこで、大学生が日常生活において周囲とどのような場合に同調行動をとっているのかについて、仮説1「多くの人にとるであろう行動を自分もとる」、仮説2「人に見えるところでは人と同じようにふるまう」の二つの仮説をたて、調査・検討を行う。

同調行動と性差の関連について、江口（1966）では、依存的な傾向が強い者は社会的な動きに同調しやすいとしている。そしてその依存性にはいくつかの性差がみられており、男性よりも女性の方が、依存性が強いとされている。つまり、同調行動には性差によって違いが見られると考えられる。これまでは女性のほうがグループに所属しながら友人関係を構築し、その中で同調行動を行う様子が多く見受けられてきた。しかし、葛西ら（2010）の調査結果より、男子生徒と女子生徒の間では同調に関して差がみられていないことが明らかとなっている。

以上を踏まえて、男女による変化は見られるのだろうか、そうであればどのような違いがあるのかについて着目することとし、本研究では性差による同調行動の違いを分析し、二つの仮説を検討する。

2 方法

本報告では以下の項目を分析対象とした。

1) 周囲との同一化行動

日常行動のうち同調が生じやすいと考えられる行動14項目の因子分析を行った結果に基づいて2因子「個人の好み」、「他人と共有すること(以下他人と共有)」を採用した。個人の好みの因子を代表する項目を加算して合計得点を求め、「個人の好み得点」として、この得点の平均値より高い場合を個人の好み高群(N=89)、低い場合を個人の好み低群(N=97)として分析を行った。他人と共有することの因子も同様に合計得点を求め、「他人と共有得点」として、この得点の平均値より高い場合を他人と共有高群(N=84)、他人と共有低群(N=101)として分析を行った。無回答は分析から除外した。

2) 他者による重要度

同一化行動について他者はどのように評価しているか、に関する14項目の因子分析を行った結果に基づいて、2因子「コミュニティ継続に重要(以下コミュニティ重要)」、「コミュニティ継続に重要でない(以下コミュニティに重要でない)」を採用した。コミュニティ重要因子を代表する項目を加算して合計得点を求め、「コミュニティ重要得点」とし、コミュニティに重要でない因子も同様に合計得点を求め、「コミュニティに重要でない得点」として分析を行った。

3) 所属欲求尺度

「人は社会的な絆を形成し、社会的に受容されたいという基本的欲求を持つ」という所属欲求の個人差を測定する項目である。小林ら(2006)の所属欲求尺度(5段階評定)をもとに、10項目を採用した。この10項目を加算して合計得点を求め、「所属欲求得点」として、平均値より高い場合を所属高群(N=86)、低い場合を所属低群(N=95)として分析を行った。なお、無回答は分析から除外した。

4) 私生活主義尺度(自分の感覚や実感の重視)

自分の感情や考え、主張を最優先する傾向を測定する項目である。久世ら(1987)の規範意識と私生活主義尺度(5段階評定)をもとに、11項目を採用し、この11項目を加算して合計得点を求め、「私生活主義得点」として分析を行った。

5) 同調志向尺度

他者からより正確な情報を得ようとの動機から生じる同調を測定する項目である。横田ら(2010)の同調志向尺度(5段階評定)をもとに、10項目を採用した。この10項目を加算して合計得点を求め、この得点の平均値より高い場合を同調高群(N=100)、低い場合を同調低群(N=82)として分析を行った。なお、無回答は分析から除外した。

6) 自意識尺度

自分の外見や他者に対する行動など、外から見える自己の側面に注意を向ける程度の個人差を測定する項目である。菅原ら（1984）の自意識尺度（7段階評定）をもとに、11項目を採用し、この11項目を加算して合計得点を求め、「自意識尺度得点」として分析を行った。

7) 承認欲求尺度

人から肯定的な評価を受けたい、あるいは人に悪く評価されるのを避けたいという欲求を測定する項目である。植田ら（1990）の承認欲求尺度（5段階評定）をもとに、20項目を採用し、この20項目を加算して合計得点を求め、「承認欲求尺度得点」として分析を行った。

3 結果

3.1 周囲との同一化行動の程度と所属欲求、同調志向、他者の重要度の比較

まず、周囲との同一化行動の程度により、所属欲求、同調志向、他者の重要度の各要因得点に差が見られるかどうか調べるため、t検定を行った。個人の好み高低での結果は表1で示すとおりである。男性は個人の好み高低において、所属欲求、同調志向、コミュニティ重要でないの3得点でそれぞれ有意な差が見られた。一方で女性は同調志向のみ有意な差が見られた。

表1 個人の好み高低による所属欲求、同調志向、他者の重要度の平均値（男女別）

	男性			女性		
	高群	低群	t値	高群	低群	t値
所属欲求	33.795	29.104	-3.504 ***	32.729	31.111	-1.227
同調志向	32.513	29.681	-2.435 *	33.061	28.766	-4.355 ***
コミュニティ重要	18.425	16.735	-1.573	17.449	16.277	-1.209
コミュニティ重要でない	13.842	11.306	-2.754 **	12.542	11.298	-1.558

***p<.001,**p<.01,*p<.05

また、他人と共有高低での結果を表2に示した。男性は所属欲求、コミュニティ重要の2得点で有意な差がみられた。一方で女性は個人の好み高低同様、同調志向のみ有意な差が見られた。

表2 他人と共有高低による所属欲求、同調志向、他者の重要度の平均値(男女別)

	男性			女性		
	高群	低群	t値	高群	低群	t値
所属欲求	33.405	29.388	-2.922 **	33.296	30.735	-1.964
同調志向	32.154	29.826	-1.972	33.311	28.882	-4.510 ***
コミュニティ重要	18.872	16.286	-2.440 *	17.822	16.039	-1.895
コミュニティ重要でない	12.579	12.208	-0.360	12.511	11.400	-1.386

***p<.001,**p<.01,*p<.05

3.2 同調志向の高低からみる周囲との同一化行動

同調志向の得点を高低群に分け、t検定を行い、周囲との同一化行動(個人の好みと他人と共有)の2得点に差が見られるか分析を行った。その結果を表3に示した。その結果、t検定において男性は個人の好みのみ、有意な差が見られた。一方で女性は個人の好み、他人と共有の2得点で有意な差が見られた。

表3 同調志向の高低群別周囲との同一化行動の平均値(男女別)

	男性			女性		
	高群	低群	t値	高群	低群	t値
個人の好み	10.271	8.842	-2.090 *	11.077	8.432	-6.047 ***
他人と共有	11.298	9.974	-1.976	11.250	8.773	-5.115 ***

***p<.001,**p<.01,*p<.05

3.3 所属欲求の高低からみる周囲との同一化行動

所属欲求の程度により、各尺度の相関に変化が見られるか調べるために、相関分析を行い、所属欲求得点が低い場合の結果を表4に示した。所属欲求の得点が低い場合、私生活主義は女性の他人と共有との間で有意な負の相関が見られた($r=-.327$)。次に同調志向では男性がコミュニティ継続影響なし($r=.304$)、女性が他人と共有($r=.310$)との間でそれぞれ正の相関が見られた。そして承認欲求では、男性の個人の好み($r=.315$)、他人と共有($r=.415$)、コミュニティ継続に重要($r=.405$)との間に正の相関が見られた。

表4 所属欲求の得点が低い場合の各尺度の相関分析

	私生活主義		同調志向		自意識/公的		承認欲求	
	男	女	男	女	男	女	男	女
個人の好み	-0.050	-0.469 ***	0.189	0.479 ***	0.228	0.073	0.315 *	0.274
他人と共有	-0.270	-0.327 *	0.221	0.310 *	-0.096	0.155	0.415 **	0.194
コミュニティ継続に重要	-0.148	0.055	0.258	0.099	0.274	0.130	0.405 **	-0.109
コミュニティ継続に影響なし	-0.084	0.067	0.304 *	0.028	0.091	0.146	0.275	0.004

***p<.001,**p<.01,*p<.05

そして所属欲求の得点が高い場合の結果を表5に示した。同調志向では男性はコミュニティ継続に影響なし (r=.476) 女性では個人の好み (r=.425) 他人と共有 (r=.586) との間にそれぞれ正の相関が見られた。次に自意識では、男性の他人と共有 (r=.415) とコミュニティ継続に重要 (r=.367) との間で正の相関がみられた。最後に承認欲求では男性の他人と共有 (r=.321)、コミュニティ継続重要 (r=.370) コミュニティ継続に影響なし (r=.394) 女性では他人と共有 (r=.529) との間にそれぞれ有意な正の相関が見られた。

表5 所属欲求の得点が高い場合の各尺度の相関分析

	私生活主義		同調志向		自意識/公的		承認欲求	
	男	女	男	女	男	女	男	女
個人の好み	-0.238	0.202	0.300	0.425 **	0.040	-0.083	0.233	0.263
他人と共有	-0.277	-0.112	0.294	0.586 ***	0.415 *	0.222	0.321 *	0.529 ***
コミュニティ継続に重要	-0.132	0.098	0.297	0.284	0.367 *	-0.114	0.370 *	0.181
コミュニティ継続に影響なし	-0.210	0.160	0.476 **	0.062	0.283	-0.128	0.394 *	0.077

***p<.001,**p<.01,*p<.05

4 考察

4.1 周囲との同一化行動の程度と所属欲求、同調志向、他者の重要度の比較

まず、男性の場合、個人の好み高群の方がコミュニティに重要でない得点が高かった。このことから、コミュニティを維持するために重要ではない周囲との同一化行動であっても、他人が評価していると考えれば、友人と同じように免許を取りに行ったりピアスの穴をあけるなどの自分の好みに関して行動する際に他者と同じようにふるまう、といえる。

つまり、コミュニティ維持においてその行動が重要かどうか、ではなく、他人がその行動を重要視しているかどうかで、実際の周囲との同一化行動が変化すると推測することができる。

さらに、所属欲求、同調志向においても有意な差が見られることから、集団に所属したい、同調したい、という意識が高い場合に周囲との同一化行動に移していることがわかる。この点をふまえると、自分の好みに関する周囲との同一化行動については、周りの人が「重視するだろう」と考えれば実際に同調しているといえる。

一方で他人と共有では、男性の場合は高群の方が所属欲求とコミュニティ重要得点が高かった。この結果から、コミュニティを維持するための行動を重要視し、且つ集団に所属したいと考える人は、他人と共有できる行動に関して周囲との同一化行動をとっている、ということができる。つまり、「友人に合わせて部活動・サークルに入部する」というような他人と共有できる行動を周囲と同一化することで、自分自身が周りコミュニティの中に参加し、それを維持している、という満足感を得ているのであろう。

また、女性は個人の好み高群、他人と共有高群双方で同調志向得点が高かった。この結果から、個人の趣向や他人と共有することに関わるいずれの行動であっても、「周囲の人と同調をしたい」と考える女性は実際に周囲との同一化行動に移しているということがいえる。

4.2 同調志向の高低からみる周囲との同一化行動

仮説1「多くの人にとるであろう行動を自分もとる」の検証では同調志向の高さが大きく影響を与えると考える。そこで、同調志向の高低別周囲との同一化行動の平均点の差を検討した。その結果、他人と共有にかかわる同一化行動では女性の場合のみ有意な差が見られた。この結果について、女性は他者から正確な情報を得るために同調するのではないかと考えられる。つまり、他者が共有している正確な情報を把握していないことで周囲から孤立する、あるいは取り残されることを避けるために同調行動をとっているのではないだろうか。したがって同調志向が高く、他者から正確な情報を得ようとしている女性の場合は他人と共有するような行動に同一化していると考えられる。逆に同調志向が低く、他者から正確な情報を得ようとしない場合は他人と共有するような行動に同一化しないといえる。以上を踏まえて、女性の場合における他人と共有することにかかわる同一化行動については「他者から正確な情報を得ようとしたいか否か」が大きく影響を及ぼしていると考えられる。

一方で自分の好みに関する行動については男女ともに有意な差が見られた。この結果から、周囲の人と同調したい、という意識が高ければ男女問わず、自分の好みについても周囲の行動に合わせてしまう傾向があるといえる。

以上の結果から仮説1について女性は自分の好みと他人と共有において支持され、男性は自分の好みのみ、支持された。

4.3 所属欲求の高低からみる周囲との同一化行動

研究において立てた仮説2「人に見えるところでは人と同じようにふるまう」を検証する上で、集団に所属していきたい、という所属欲求の高さが周囲との同一化行動に影響を与えると考えた。そこで、所属欲求得点の高低別で相関分析をし、得られた結果をもとに考察を行っていく。

まず、所属欲求の得点が低い場合、男性は承認欲求と、個人の好み、他人と共有項目との間で相関が見られた。このことから、例えば集団に所属していきたい、という欲求が低くても、周囲に認めてもらいたい、と思えば周囲との同一化行動をするといえる。つまり、男性においては、周囲との同一化行動が必ずしも望んで行われているわけではないとも考えられる。

また、同調志向において、女性は他人と共有との間で相関が見られた。したがって集団への所属を求めていなくても、「周囲と同調したい」という意識が高ければ、他人と共有するような行動に関して同調する傾向があると考えられる。つまり、女性は集団に所属することが周囲と同調することであると捉えていないと推測できる。この結果は江口（1966）の「男性よりも女性の方が依存性が高い」という主張を支持するものであるといえる。

つぎに、所属欲求の得点が高い場合、男性は自意識尺度と他人と共有、コミュニティ継続に重要との間で相関が見られた。この結果から、男性は集団への所属欲求が高ければ、他者から見られる自分への意識が高いほど、皆が重要だと考える行動をより高く評価し周囲との同一化行動をする傾向があると考えられる。

一方で女性は同調志向において個人の好み項目で相関がみられた。このことから女性は集団への所属欲求が高ければ「髪を染める」、などの個人の好みに関する行動についても同調する傾向がみられるといえよう。

したがって、仮説2は所属欲求が低い場合、男性は承認欲求が高ければ周囲との同一化行動をとるという点で、そして女性では同調志向が高ければ他人と共有項目で同一化行動をとる点で支持された。一方で所属欲求が高い場合、男性は自意識尺度が高ければ他人と共有、コミュニティ継続に重要項目で同一化行動をとる点で、女性では同調志向が高ければ個人の好み項目で同一化行動をとる点で支持された。

4.4 本研究の問題点及び今後の課題

本研究において性差による周囲との同一化行動の違いを中心として調査・検討してきた。そして、調査結果をもとに考察を行ったが、今回は性別によって同一化行動がどのような傾向にあるのか、についてのみの言及であった。したがって、性差による同一化行動がなぜ起きたのか、という原因の部分の今回は明らかにすることができなかった。この点は本研究の問題点であり、今後の課題でもある。

さらに、同調行動の調査・検討の前に疑問として提示していたアルバイトと同調行動と

の関係性についても今回は検討できていなかった点は本研究の問題点として挙げられる。大学生のアルバイトが自立を目的としているのか、周囲との同一化行動の一つとして捉えられているのか、については発展研究として今後調査・検討する必要がある。

そして、本研究で明らかとなった性差における大学生の同一化行動の違いを調査・検討することで更に明らかとなる、あるいは推測できる点についての考察を行っていなかった。例えば同一化行動が大学生活や今後のキャリア形成にどのような影響を与えるのか、といった点は今後大学生の就業意欲や働き方といった社会人としてのビジョンの形成にも大きく関わると考えられる。したがって、発展研究としてキャリア形成との関連を明らかにすることは今後の課題となるであろう。

引用文献

- 江口恵子 1966 依存性の研究 教育心理学研究 14(1) 45-58.
- 葛西真記子 松本麻里 2010 青年期の友人関係における同調行動: 同調行動尺度の作成 鳴門教育大学研究紀要 25 189-203.
- 小林知博・谷口淳一・木村昌紀・Leary, M. R 2006 所属欲求尺度 (the Need to Belong Scale) 邦訳版作成の試み 日本心理学会大会発表論文集, 70,220.
- 小平英志・西田裕紀子 2004 大学生のアルバイト経験とその意味付け 日本青年心理学会大会発表論文集(12), 30-31.
- 久世敏雄・宮沢秀次・二宮克美・和田実・後藤宗理・浅野敬子・宗方比佐子・大野久・内山伊知郎・鄭曉齊 1987 現代青年の社会意識に関する研究 名古屋大学教育学部紀要 社会心理学科 ,34,25 39.
- 成城大学 2009 学生実態調査報告
- 菅原健介 1984 自意識尺度 (self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究,55,184-188.
- 植田智・吉森謙 1990 日本版 MLAM 承認欲求尺度作成の試み 広島大学教育学部紀要 1,39,151-156.
- 横田晋大・中西大輔 2010 同調志向尺度の作成: 規範的影響と情報的影響 広島修大論, 51, 2, 23-36.

個人の同調行動に影響を与える要因について

原田 萌

1 はじめに

近年、若者の友人関係の希薄化が問題視されている。葛西・松本ら（2010）によると、日本の若者の希薄な友人関係の広まりは1970年代から指摘されているという（千石, 1991）。また岡田（1995）によると、互いに傷つけあわないよう気を遣うといった自己防衛的な友人関係がとられており、そのような友人関係では、表面的な楽しさを求める一方で関係が深まることを恐れる傾向があると指摘している。しかしその一方で、友人と内面的には心理的距離をとりたいと考えながら、行動的には同調的であろうとする若者が存在するという指摘もある（上野ら, 1994）。現代のこのような傾向の特徴として挙げられているのが同調行動である。

同調とは、判断や態度など広い意味での行動について、他者や集団が示す標準や期待にそって他者や集団と同一のあるいは類似の行動をとることをいう（玉上, 2011）。同調行動を助長する要因として、滋賀県大津市で平成23年10月に起きたいじめ自殺事件に代表されるような、いじめの問題が近年多発していることが関係しているのではないだろうか。文部科学省により平成24年8月～9月に行われた調査では、国公立の小・中・高校などにおけるいじめの認知件数は半年間で約14万5054件にのぼったと示されている。田崎（1974）は同調行動からの逸脱者が他の成員から拒絶される傾向を指摘しており、いじめと同調行動の関連を述べている。これらの結果から人々が同調行動をとる理由は、仲間やグループの中に属していたい、一人ぼっちになりたくない、周りから受容されたいといった思いから、周りから逸脱しない行動をとりリスクを避けようとするためであることがわかる。つまり「集団に所属していたい」と思う人ほど、同調行動をとりやすい傾向があると考えられる。

本研究では「所属欲求が高い人ほど、多くの人にとるであろう行動をとる」という仮説を立て、日常行動のうち同調が生じやすいと考えられる行動と、その行動についてどの程度他者が重要と考えるかを比較する。グループで行動することが多いかひとりで行動することが多いか、所属欲求高低の程度、私生活主義高低の程度において、これらの得点を比較・検討し、同調行動をとることに影響を与える要因について明らかにする。

2 方法

本報告では以下の項目を分析対象とした。

1) 所属欲求尺度

所属欲求とは「人は社会的な絆を形成し、社会的に受容されたいという基本的欲求を持つ」という所属仮説に基づく概念であり、その所属欲求の個人差を測定する項目である。小林ら(2006)の所属欲求尺度 10項目を採用し、5段階評定で回答を求めた。10項目の合計得点を求めて所属欲求得点として、平均値より高い場合を所属欲求高群(N=86)、低い場合を所属欲求低群(N=95)として分析を行った。無回答は分析から除外した。

2) 私生活主義尺度

自分の感情や考え、主張を最優先する傾向を測定する項目である。久世ら(1987)の私生活主義より、私生活主義を構成する 11項目を採用し、5段階評定で回答を求めた。11項目の合計得点を求めて私生活主義得点として、平均値より高い場合を私生活主義高群(N=86)、低い場合を私生活主義低群(N=93)として分析を行った。無回答は分析から除外した。

3) 周囲との同一化行動

日常行動のうち同調が生じやすいと考えられる行動を 14項目作成した。個人が周囲との同一化行動をとる程度について 4段階評定で回答を求め、分析に用いた。無回答は分析から除外した。

4) 他者による重要度

3) で用いた、日常行動のうち同調が生じやすいと考えられる行動 14項目について、周りの人々がどの程度重要であると評価するかを 4段階評定で回答を求め、分析に用いた。無回答は分析から除外した。

5) 普段の行動

普段の生活の中で「グループで行動することが多い」か「ひとりで行動することが多い」かを問い、分析に用いた。無回答は分析から除外した。

3 結果

3.1 普段の行動タイプ別所属欲求得点と私生活主義得点の比較

グループで行動することが多い場合とひとりで行動することが多い場合の所属欲求得点と私生活主義得点に差があるかを調べるために t 検定を行い、その結果を表 1 に示した。普段の行動タイプによる所属欲求得点($t=3.930, p<.001$) 私生活主義得点($t=2.387, p<.05$)の平均値はともに有意な差がみられた。

表1 所属欲求得点と私生活主義得点の平均値

	グループ行 動すること が多い	ひとりで 行 動すること が多い	t値
所属欲求	33.88	29.99	3.930 ***
私生活主義	39.05	41.24	2.387 *

***p<.001, **p<.01, *p<.05

3.2 周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の比較

周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の違いを調べるために、普段の行動タイプ、所属欲求の程度、私生活主義の程度別に平均値を比較した。

1) グループで行動することが多い場合

グループで行動することが多い場合の、個人がとる周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点に差があるかを調べるために t 検定を行い、その結果を表 2 に示した。「友人の間で SNS が流行っていたので、自分も始める」(t =4.100, p<.001)「友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする」(t =2.149, p<.05)「友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける」(t =2.254, p<.05) でそれぞれの平均値に有意な差がみられた。

表2 グループで行動することが多い場合の周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の平均値

	周囲との 同一化行 動(Q1)	他者によ る重要度 (Q2)	t値
1) 外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	1.72	1.71	.108
2) 友人の間で SNS が流行っていたので、自分も始める。	2.92	2.44	4.100 ***
3) 友人が髪を染めたので、髪を染める。	1.51	1.59	.829
4) 友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	1.28	1.32	.483
5) 友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	2.30	2.02	2.149 *
6) 誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる。	3.03	2.82	1.763
7) 友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	2.89	2.62	2.254 *
8) 友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	2.10	2.26	1.317
9) 大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	2.34	2.40	.460
10) 友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	1.84	1.78	.500
11) 授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	1.92	2.07	1.401
12) 友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	1.26	1.41	1.654
13) 部活動・サークルなどで、何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	2.48	2.52	.259
14) 友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見ると。	2.05	2.18	1.146

***p<.001, **p<.01, *p<.05

2) ひとりで行動することが多い場合

ひとりで行動することが多い場合の、個人がとる周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点に差があるかを調べるために t 検定を行い、その結果を表3に示した。「友人が髪を染めたので、髪を染める」($t=4.485, p<.001$) 「友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める」($t=3.621, p<.01$) 「友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける」($t=2.551, p<.05$) 「友人にあわせて部活動・サークルに入部する」($t=3.853, p<.001$) 「大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する」($t=3.712, p<.001$) 「友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う」($t=4.405, p<.001$) 「友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける」($t=4.848, p<.001$) 「部活動・サークルなどで、何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する」($t=2.732, p<.01$) 「友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るともりはなかったが自分も見」($t=2.523, p<.05$) でそれぞれの平均値に有意な差がみられた。

表3 ひとりで行動することが多い場合の周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の平均値

	周囲との 同一化行 動(Q1)	他者によ る重要度 (Q2)	t値
1) 外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	1.55	1.71	1.256
2) 友人の間でSNSが流行っていたので、自分も始める。	2.36	2.53	1.018
3) 友人が髪を染めたので、髪を染める。	1.18	1.58	4.485 ***
4) 友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	1.09	1.37	3.621 **
5) 友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	1.99	2.07	.532
6) 誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる。	2.79	2.54	1.641
7) 友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	2.33	2.66	2.551 *
8) 友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	1.71	2.20	3.853 ***
9) 大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	1.89	2.34	3.712 ***
10) 友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	1.36	1.80	4.405 ***
11) 授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	2.09	2.23	.869
12) 友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	1.07	1.47	4.848 ***
13) 部活動・サークルなどで、何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	2.28	2.59	2.732 **
14) 友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るともりはなかったが自分も見。	1.80	2.11	2.523 *

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

3) 所属欲求得点が低い場合

所属欲求得点が低い場合の、個人がとる周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点に差があるかを調べるために t 検定を行い、その結果を表 4 に示した。「友人が髪を染めたので、髪を染める」(t =4.254, p<.001) 「友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める」(t =3.098, p<.01) 「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」(t =3.704, p<.001) 「友人にあわせて部活動・サークルに入部する」(t =3.264, p<.01) 「大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する」(t =4.126, p<.001) 「友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う」(t =2.333, p<.05) 「友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける」(t =4.254, p<.001) 「友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るともりはなかったが自分も見」(t =3.195, p<.01) でそれぞれの平均値に有意な差がみられた。

表 4 所属欲求得点が低い場合の周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の平均値

	周囲との 同一化行 動(Q1)	他者によ る重要度 (Q2)	t値
1) 外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	1.56	1.65	.877
2) 友人の間でSNSが流行っていたので、自分も始める。	2.38	2.29	.656
3) 友人が髪を染めたので、髪を染める。	1.15	1.49	4.254 ***
4) 友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	1.16	1.42	3.098 **
5) 友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	1.82	1.92	.699
6) 誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる。	2.93	2.46	3.704 ***
7) 友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	2.32	2.49	1.400
8) 友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	1.84	2.22	3.264 **
9) 大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	1.86	2.34	4.126 ***
10) 友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	1.52	1.79	2.333 *
11) 授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	1.85	2.05	1.527
12) 友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	1.07	1.42	4.254 ***
13) 部活動・サークルなどで、何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	2.34	2.51	1.445
14) 友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るともりはなかったが自分も見。	1.79	2.14	3.195 **

***p<.001,**p<.01,*p<.05

4) 所属欲求得点が高い場合

所属欲求得点が高い場合の、個人がとる周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点に差があるかを調べるために t 検定を行い、その結果を表 5 に示した。「友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける」(t =3.570, p<.01) で平均値に有意な差がみられた。

表5 所属欲求得点が高い場合の周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の平均値

	周囲との 同一化行 動(Q1)	他者によ る重要度 (Q2)	t値
1)外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	1.78	1.77	.104
2)友人の間でSNSが流行っていたので、自分も始める。	2.91	2.63	1.940
3)友人が髪を染めたので、髪を染める。	1.53	1.69	1.512
4)友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	1.28	1.31	.354
5)友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	2.40	2.21	1.423
6)誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる。	3.00	2.90	.823
7)友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	2.92	2.83	.798
8)友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	2.10	2.29	1.458
9)大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	2.42	2.48	.495
10)友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	1.70	1.88	1.943
11)授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	2.16	2.23	.652
12)友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	1.22	1.53	3.570 **
13)部活動・サークルなどで、何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	2.44	2.58	1.157
14)友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見る。	2.12	2.22	.861

***p<.001,**p<.01,*p<.05

5) 私生活主義得点が低い場合

私生活主義得点が低い場合の、個人がとる周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点に差があるかを調べるためにt検定を行い、その結果を表6に示した。「友人が髪を染めたので、髪を染める」(t=2.528, p<.05)「友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける」(t=3.339, p<.01)でそれぞれの平均値に有意な差がみられた。

6) 私生活主義得点が高い場合

私生活主義得点が高い場合の、個人がとる周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点に差があるかを調べるためにt検定を行い、その結果を表7に示した。「友人が髪を染めたので、髪を染める」(t=3.685, p<.001)「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」(t=3.520, p<.05)「友人にあわせて部活動・サークルに入部する」(t=4.216, p<.001)「大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する」(t=2.010, p<.05)「友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う」(t=3.539, p<.001)「授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く」(t=2.771, p<.01)「友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける」(t=4.028, p<.001)「友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見る」(t=2.048, p<.05)でそれぞれの平均値に有意な差がみられた。

表6 私生活主義得点が低い場合の周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の平均値

	周囲との 同一化行 動(Q1)	他者によ る重要度 (Q2)	t値
1) 外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	1.68	1.74	.581
2) 友人の間でSNSが流行っていたので、自分も始める。	2.68	2.55	1.037
3) 友人が髪を染めたので、髪を染める。	1.35	1.58	2.528 *
4) 友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	1.27	1.32	.649
5) 友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	2.02	2.10	.600
6) 誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる。	2.95	2.82	.993
7) 友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	2.67	2.71	.376
8) 友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	2.18	2.29	.832
9) 大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	2.18	2.41	1.889
10) 友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	1.71	1.78	.688
11) 授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	2.05	2.03	.174
12) 友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	1.18	1.48	3.339 **
13) 部活動・サークルなどで、何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	2.52	2.55	.300
14) 友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見る。	1.91	2.10	1.709

***p<.001,**p<.01,*p<.05

表7 私生活主義得点が高い場合の周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の平均値

	周囲との 同一化行 動(Q1)	他者によ る重要度 (Q2)	t値
1) 外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	1.64	1.66	.210
2) 友人の間でSNSが流行っていたので、自分も始める。	2.58	2.38	1.305
3) 友人が髪を染めたので、髪を染める。	1.28	1.62	3.685 ***
4) 友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	1.21	1.39	1.753
5) 友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	2.24	2.01	1.509
6) 誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる。	2.98	2.52	3.520 *
7) 友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	2.56	2.63	.509
8) 友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	1.67	2.15	4.216 ***
9) 大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	2.07	2.31	2.010 *
10) 友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	1.52	1.88	3.539 ***
11) 授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	1.93	2.26	2.771 **
12) 友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	1.14	1.48	4.028 ***
13) 部活動・サークルなどで、何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	2.27	2.52	1.930
14) 友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見る。	1.98	2.22	2.048 *

***p<.001,**p<.01,*p<.05

4 考察

1) 行動タイプ別所属欲求得点と私生活主義得点の比較 (表 1)

普段グループで行動することが多い人は、ひとりで行動することが多い人に比べて所属欲求が高く、ひとりで行動することが多い人は、グループで行動することが人に比べて私生活主義が高いことがわかる。所属欲求とは社会的な絆や受容を求めることであり、それは相手がいるからこそ満たされる欲求である。そのため複数の人と共に行動しているということは欲求を満たすための前提であり、所属欲求が高い人が普段グループで行動していることは理にかなっていると考えられる。一方、自分の感情や考えを何より優先させたいと考える私生活主義の高い人にとっては、他人の感情や考えを考慮する必要のないひとりで行動の方が、より気楽な環境なのである。海野・三浦(2011)からも、やりたいことを自由にやりたいという自由意志を持つ人が、ひとりで過ごすことに対して充実・満足といった感情や評価を持っていることが示されている。このように、行動タイプによってそれぞれ違った傾向が見られるということは、人々は自分が満たしたいと考える要望に対応することを中心に、行動スタイルの選択をおこなっているということが考えられる。

2) 行動タイプ別周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の比較 (表 2 ~ 3)

グループで行動することが多い人の、周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の平均値に差がみられたのは、「友人の間で SNS が流行っていたので、自分も始める」、「友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする」、「友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける」の 3 項目であり、いずれも周囲が重要だと考える以上に行動をとる傾向にあることがわかる。これらの項目に共通して言えることは、友人同士の交流や仲を深めることを目的とした行為であるということである。その場にはいないということは、自分の知らない新たな話題や情報が他の友人同士で共有されているかもしれない。それは今後のコミュニティ継続に少なからず影響を及ぼすとも考えられる。グループで行動する人にとって、友人同士の交流の場に自分が加わっていないという状況は避けたいことであり、重視されているのだと考えられる。

ひとりで行動することが多い人では、「友人が髪を染めたので、髪を染める」、「友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める」、「友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける」、「友人にあわせて部活動・サークルに入部する」、「大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する」、「友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う」、「友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける」、「部活動・サークルなどで、何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する」、「友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見ると」の 9 項目で周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の平均値に差が見られ、いずれも周囲は重要であると考えられるが自分は行動しないという傾向にあることがわかる。これらの項目は、周囲との同一化をはかろうとすることで自身の主張が阻害されたり、趣

味・好みに合わないことを強要される可能性のあるものである。自身が譲れない点であるからこそ、周りの人による重要度も高いだろうと考えられ、結果このように差が見られたのではないかと考えられる。

3) 所属欲求高低別周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の比較(表4～5)

所属欲求低群では「友人が髪を染めたので、髪を染める」、「友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める」、「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」、「友人にあわせて部活動・サークルに入部する」、「大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する」、「友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う」、「友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける」、「友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見ると」の8項目で周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の平均値に差が見られ、「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」以外の7項目で、周囲は重要であると考えているが自分は行動しないという傾向にあることがわかる。この7項目は、同調行動をとることで自分の時間やお金などがある程度費やされることとなり、多少の損を伴うことのある行為であると考えられる。所属欲求が低い人にとっては、自分を犠牲にしてまで同調行動をとることは価値を見出さないのであろう。唯一、周囲との同一化行動得点の平均値が高くなった「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」に関しては、成瀬(2006)より、他者の動作に対して自己の動作速度を調整する行為はコミュニケーション・スキルの一要素と考えられると述べられている。よってこの行動にはコミュニケーション・スキルが影響することがわかる。さらに大坊(2006)ではコミュニケーションにおいて、自己表現を抑制せずに行えることの重要性が述べられているが、所属欲求が高い人は集団から外されたくないという思いから、所属欲求が低い人に比べ自己表現を抑制する傾向があると考えられる。そのため所属欲求高低によりコミュニケーション・スキルに差が生じ、「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」という行動に影響したのではないだろうか。

所属欲求高群では「友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける」で平均値の差がみられた。これは所属欲求低群と同様、周囲が思う重要度よりも低いという結果であった。ピアスに関しては所属欲求低群が1.18、高群が1.22といずれも低い数値であり、そもそも同調が起こりにくい行動であると考えられる。

4) 私生活主義高低別周囲との同一化行動得点と他者による重要度得点の比較(表6～7)

私生活主義低群では「友人が髪を染めたので、髪を染める」、「友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける」の2項目でそれぞれの平均値に差がみられ、いずれも重要度より低い行動傾向であることがわかる。私生活主義高群についても見ると、この2項目は低群と同様に重要度よりも低い行動傾向であるという結果であった。髪を染めたり、ピアスをあけたりすることはあくまで自分が楽しむおしゃれであり、それ

によって仲間外れにされるなどといった、コミュニティの継続に影響を及ぼすことはあまり考えられない。そのため私生活主義の高低にかかわらず、周囲との同一化行動がとられない傾向がみられたのではないだろうか。

私生活主義高群では、それらに加え「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」、「友人にあわせて部活動・サークルに入部する」、「大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する」、「友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う」、「授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く」、「友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見ると平均値に差がみられ、「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」以外の項目は、いずれも周りは重要であると考えているが自分は行動しないという傾向にあることがわかる。私生活主義の高い人は、周りが重要だと考えていたとしても、趣味にそぐわないことや手間のかかることにあえて取り掛かることでそこに価値は見出せないと考えているようである。「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」においては、先ほど所属欲求高低別の考察で述べたように、他者の動作に対して自己の動作速度を調整する行為はコミュニケーション・スキルの一要素と考えられ、また藤本・大坊(2007)によると、外交性の高い人ほどコミュニケーション・スキルが優れており、外交性の高い人ほど自己主張が高いという調査結果が出ている。これらより私生活主義とコミュニケーション・スキルには関連性があり、「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」という行為は、コミュニケーション・スキルの高さが影響して行われる行為であると考えられる。

5) まとめ

人が同調行動をとることに影響を与える要因にどういったものがあるのかについて分析を試みた結果、同調行動をとることで損得が生じるのか、今後のコミュニティ継続に影響を及ぼす可能性があるのかという点が行動の基準となっていることがわかる。所属欲求や私生活主義などといった、個人の特性の高さによって重きの置き方が異なってくることを、本調査の結果から読み取ることができる。

また、普段グループで行動することが多い人とひとりで行動することが多い人とで所属欲求得点や私生活主義得点の平均値に差が見られたことから、集団にとどまるために同調行動をとることはある程度必要なことであると考えられる。

ひとりで行動することが多い人は重要度より同一化行動得点が高い項目はみられなかったのに対し、グループで行動することが多い人は3つの項目で重要度得点より同一化行動得点が高い結果がみられたことから、ひとりで行動することが多い人よりもグループで行動することが多い人の方が、多くの人にとるであろう行動をとる傾向があるとわかる。

「所属欲求が高い人ほど、多くの人にとるであろう行動をとる」の仮説においては、グループで行動することが多い人の方が所属欲求が高いという結果が表1で出ていること、グループで行動することが多い人は、ひとりで行動することが多い人よりも重要度得点よ

り同一化行動得点が高い項目が見られたことから、この仮説は支持された。

本調査では、所属欲求低群と私生活主義高群で「誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる」のみ同一化行動がとられる傾向が強くみられた理由について、コミュニケーション・スキルを測定する質問項目がなかったため、明確な結果が得られなかった。よって今後の課題として、コミュニケーション・スキルとの関連性についても調査を行うことで根拠を明確にし、また他に影響を与えている要因がないかどうかを検討する必要があると考える。

引用文献

- 大坊郁夫 2006 コミュニケーション・スキルの重要性 日本労働研究雑誌, No.546, 13 - 22.
- 藤本学・大坊郁夫 2007 コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み パーソナリティ研究, 第15巻, 第3号, 347 - 361.
- 葛西真記子・松本麻里 2010 青年期の友人関係における同調行動 同調行動尺度の作成 鳴門教育大学研究紀要, 第25巻
- 小林知博・谷口淳一・木村昌紀・Leary.M.R 2006 所属欲求尺度 (the Need to Belong Scale) 日本語版作成の試み 心理学研究, 55, 184 - 188.
- 久世敏雄・宮沢秀次・二宮克美・和田実・後藤宗理・浅野敬子・宗方比佐子・大野久・内山伊知郎・鄭暁斉 1987 現代青年の社会意識に関する研究 名古屋大学教育学部紀要 社会心理学科, 34, 25 - 39.
- 成瀬久美 2006 第一章速度調整のコミュニケーション機能 身体的コミュニケーションとしての動作速度調整に関する生理心理的検討, pp.1 - 5.
- 文部科学省 「いじめの問題に関する児童生徒の実態把握並びに教育委員会及び学校の取組状況に係る緊急調査」結果について
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/11/1328532.htm (2012年12月22日ダウンロード)
- 岡田努 1995 現代大学生の友人関係と自己像・友人像に関する考察 教育心理学研究, 43, 354 - 363.
- 玉上詩織 2011 青年期における同調行動選択 - 所属欲求、相互独立・相互強調的自己観、自己受容の影響 -
- 田崎敏昭 1974 同調者・逸脱者に対する知覚反応 実験社会心理学研究, 14, 69 - 77.
- 千石保 1991 “まじめ”の崩壊：平和日本の若者たち サイマル出版会
- 上野行良・上瀬由美子・松井豊・福富護 1994 青年期の交友関係における同調行動と心理的距離 教育心理学研究, 42(1), 21 - 28.
- 海野裕子・三浦香苗 2011 ひとりで過ごすことに関する感情・評価尺度の検討 昭和女子大学生生活心理研究所紀要 Vol.13, 121 - 126.

大学生の集団行動について

同調する思考と行動の違いについての検討

横山 夕姫

1 はじめに

同調行動とは、「自分とは異なる意見・態度・行動を周囲から求められたとき、迷いながらも周りの意見・態度・行動に合わせてしまうメカニズム」(藤原, 2006)である。同調には、内心から他者の意見や行動を受け入れる「内面的同調」と、表面的には同調しているように見えるが内面では異なる「表面的同調」とがあり、現象は同一でもそこに働く心理的な働きが異なる(心理学事典, 1981)。これは周囲の人間の考えに合わせる同調思考と、実際に周囲の人間の行動を模倣する同調行動と認識されるものでもあり、それらは必ずしも一致するものではないことがわかる。このような同調行動は社会生活を営む上で欠かすことのできない行動様式であり、社会的行動の下位概念と捉えることができる。

このような同調行動を引き起こす要因の一つに、現代の友人関係があると考えられる。葛西(2010)によると、現代における青年の友人関係は全般的に「表面的」で「希薄」だという。そしてその要因の一つには、いじめの影響があると主張している。森田(1994)は、いじめは集団の均質性からはずれた者に対して行われる傾向が高いと指摘している。葛西(2010)は「自分の意見を抑え、相手の意見に合わせることをいじめによる影響だとして、それが同調行動であるという見解を示している。これらは藤原(2006)が定義する「表面的同調」であり、集団から逸脱しないために行うものだと考えられる。藤原(2006)が行った調査では、いじめの場面や学級会等で傍観者の態度を取るといった、「表面的同調」が多く見られた。一方で、比較的気軽に自己主張できる好きなTVや流行などにはあまり同調性を示さなかったという結果が出ている。

これらの結果から、自己主張しやすい状況としにくい状況があり、後者では集団に同調しないことでいじめを受ける可能性があることから、それを回避するために表面的に同調することが読み取れる。すなわち、集団から排除されないように表面的同調は行われるということがわかる。そこで本研究では、実際の行動とその行動に対する受容の程度に着目し、内心からの受容を伴う場合とそうでない場合とで同調する状況にはどのような違いがあるのか、また個人の特性により同調傾向が異なるのかを明らかにする。

2 方法

本報告では以下の「私生活主義尺度」「同調志向尺度」「自意識尺度」「周囲との同一化行動」「思考と行動の4タイプ」の項目を分析対象とした。以下詳細を記述する。

1) 私生活主義尺度（自分の感覚や実感の重視）

私生活主義尺度とは、自分の感覚や実感の重視度を測ったものである。私生活主義尺度は久世ら（1987）の私生活主義尺度を使用した。使用した項目は「自分で納得いかないことはしたくない」、「何事も自分で確かめなければ気がすまない」、「自分の気持ちをいつわって行動するのはいやだ」など 11 項目を選出した。

回答選択肢は 5（非常に賛成）-1（非常に反対）の 5 件法で回答を求め、11 項目の合計得点を算出して私生活主義得点として分析を行った。

2) 同調志向尺度（情報的影響）

同調志向尺度は横田・中西（2010）による同調志向尺度を使用した。使用した項目は「外食に行くときには、情報誌や口コミを参考にする」、「自分の意見が他者と一致すると、とても安心する」、「見る映画を決めるときには、すでにその映画を見た人の評判を参考にする」など 10 項目を選出した。

回答選択肢は 5（あてはまる）-1（あてはまらない）の 5 件法で回答を求め、10 項目の合計得点を算出して同調志向得点として分析を行った。

3) 自意識尺度（公的自意識）

自意識尺度は菅原（1984）による自意識尺度を使用した。使用した項目は「自分が他人にどう思われているのか気になる」、「世間体など気にならない(逆転項目)」、「人に会う時、どんなふうにするまえば良いのか気になる」など 11 項目を選出した。

回答選択肢は 7（非常にあてはまる）-1（全くあてはまらない）の 7 件法で回答を求め、11 項目の合計得点を算出して自意識得点として分析を行った。

4) 周囲との同一化行動

日常行動のうち同調が生じやすいと考えられる行動を 14 項目作成した。項目の内容は「友人が髪を染めたので、髪を染める」、「友人にあわせて部活動・サークルに入部する」などであった。

これらの 14 項目の因子分析を行った結果に基づいて 2 因子「個人の好み」、「他人と共有すること（以下他人と共有）」を採用した。個人の好みの因子を代表する項目を加算して合計得点を求め、「個人の好み得点」とし、他人と共有することの因子も同様に合計得点を求め、「他人と共有得点」として分析を行った。

5) 思考と行動

調査対象者の特性を明らかにするために以下の設問から 4 つのグループを作成し分析に用いた。

5 - 1) 思考を測定する項目

小林ら(2006)の所属欲求尺度のうち、「一人でいるのが好きではない」という項目に「5 : かなりあてはまる」から「1 : あてはまらない」の5件法で回答を求めた。回答の平均値を算出し、平均値より高い場合を「集団でいたい人(N=61)」平均値より低い場合を「一人でいたい人(N=125)」として分類した。

5 - 2) 行動を測定する項目

普段の生活の中で「グループで行動することが多い」か「一人で行動することが多い」を問い回答を求めた。「グループで行動することが多い」と回答した場合を「集団行動する人」とし、「一人で行動することが多い」と回答した場合を「一人で行動する人」として分類した。

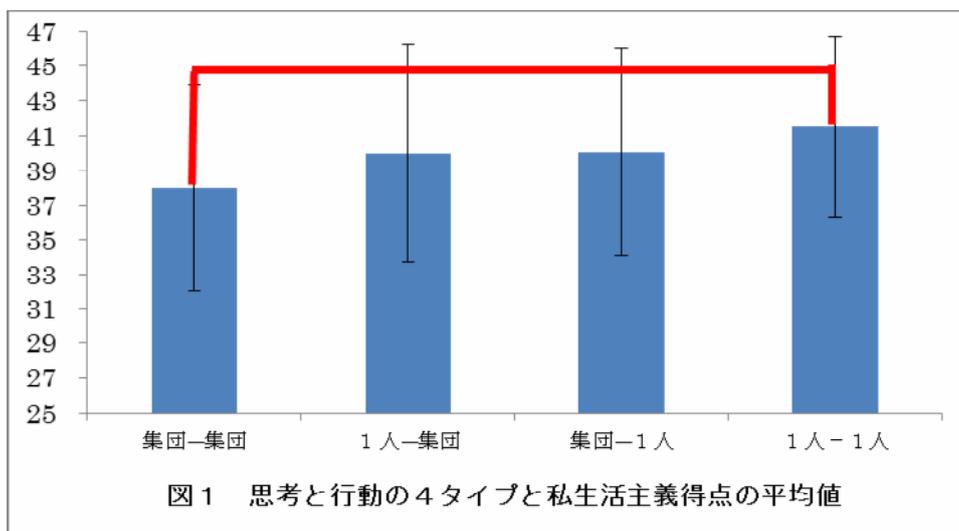
5 - 3) 大学生の思考と行動の組み合わせ 4 タイプ

思考と行動について「集団でいたい人」と「一人でいたい人」、「集団行動する人」と「一人で行動する人」の組み合わせによる4つのタイプを作成した。(思考)「集団でいたい」かつ(行動)「集団行動する人」を、「集団でいたく、集団行動する人(以下「集団 - 集団」と表記 N=40)」とした。(思考)「一人でいたい」かつ(行動)「集団行動する人」を、「一人でいたく、集団行動する人(以下「一人 - 集団」と表記 N=47)」とした。(思考)「集団でいたい」かつ(行動)「一人で行動する人」を、「集団でいたく、一人で行動する人(以下「集団 - 一人」と表記 N=15)」とした。(思考)「一人でいたい」かつ(行動)「一人で行動する人」を、「一人でいたく、一人で行動する人(以下「一人 - 一人」と表記 N=61)」とした。なお、無回答は分析から除外した。

3 結果

1) 思考と行動の4タイプ別私生活主義得点の比較

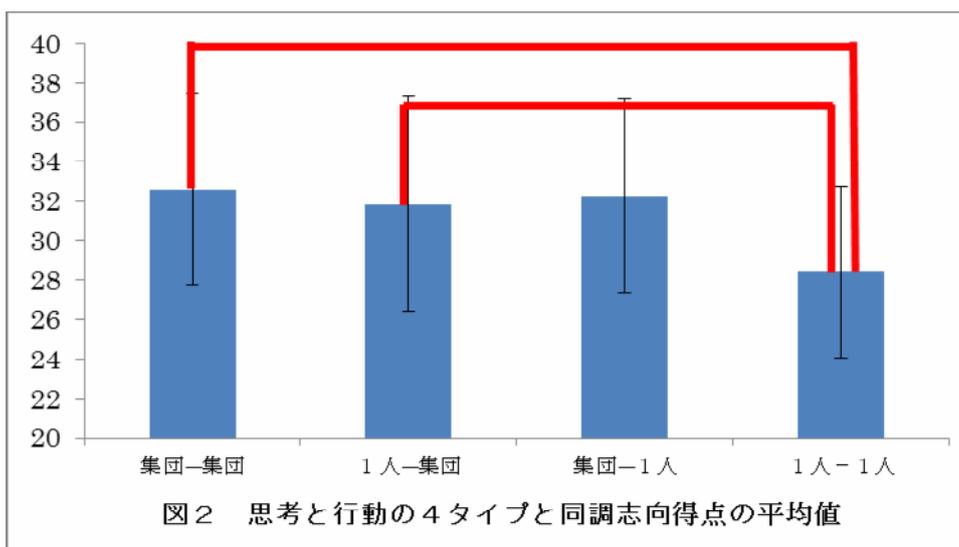
大学生の思考と行動の組み合わせ4タイプで私生活主義得点に違いがあるかを調べるため一元配置分散分析を行い、4タイプの平均値を図1に示した。その結果、4タイプの主効果は有意であった($F(3,153)=2.952, p<.05$)。さらに4タイプ間での差を検討するために Scheffe 法による多重比較を行った。その結果、「集団でいたくて集団行動する人(38.00)」の場合よりも、「一人でいたくて一人で行動する人(41.54)」の方が、値が有意に高かった。



図中のバーは標準偏差を示し、線で結んだ対象間には統計的に有意な差があることを示す。

2) 思考と行動の4タイプ別同調志向得点の比較

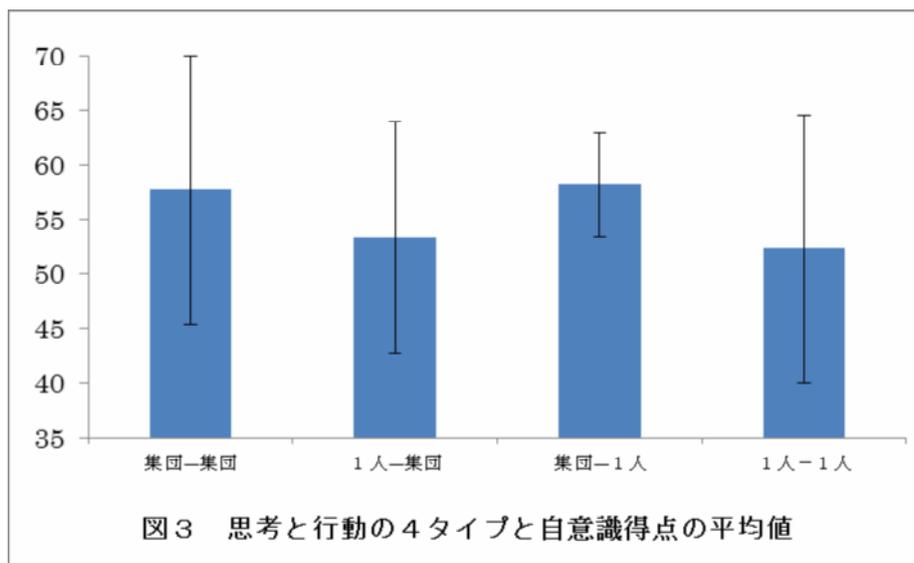
大学生の思考と行動の組み合わせ4タイプで同調志向得点に違いがあるかを調べるため一元配置分散分析を行い、4タイプの平均値を図2に示した。その結果、4タイプの主効果は有意であった ($F(3,157) = 7.390, p < .01$)。さらに4タイプ間での差を検討するために Scheffe 法による多重比較を行った。その結果、「一人でいたくて一人で行動する人(28.40)」の場合よりも、「集団でいたくて集団行動する人(32.60)」、「一人でいたくて集団行動する人(31.87)」の方が、値が有意に高かった。



図中のバーは標準偏差を示し、線で結んだ対象間には統計的に有意な差があることを示す。

3) 思考と行動の4タイプ別自意識得点の比較

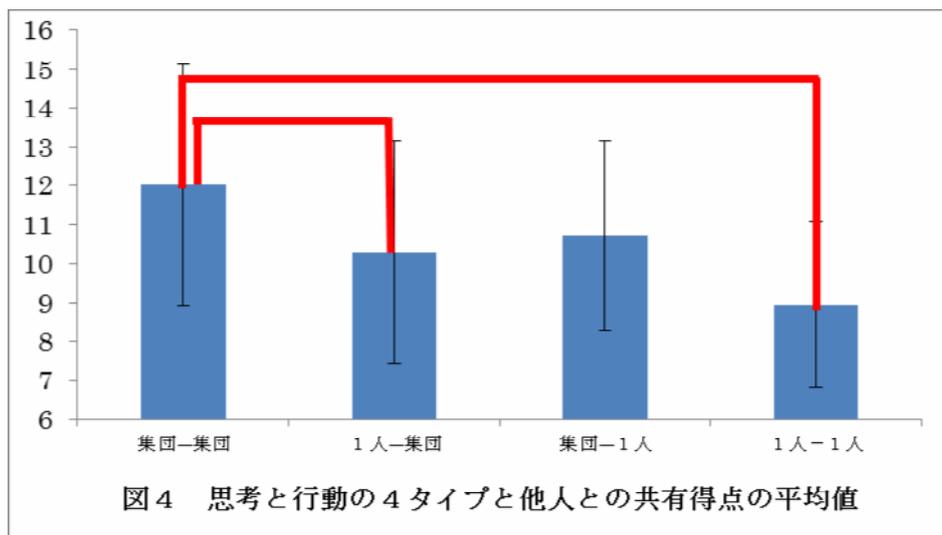
大学生の思考と行動の組み合わせ4タイプで自意識得点に違いがあるかを調べるため一元配置分散分析を行い、4タイプの平均値を図3に示した。その結果、4タイプ間に有意差はなかった ($F(3,152) = 2.477, n.s.$)。



図中のバーは標準偏差を示す。

4) 思考と行動の4タイプ別他人との共有得点の比較

大学生の思考と行動の組み合わせ4タイプで他人との共有得点に違いがあるかを調べるため一元配置分散分析を行い、4タイプの平均値を図4に示した。その結果、4タイプの主効果は有意であった ($F(3,158) = 11.148, p < .01$)。さらに4タイプ間での差を検討するために Scheffe 法による多重比較を行った。その結果、「一人でいたくて集団行動する人 (10.30)」の場合よりも、「集団でいたくて集団行動する人 (12.03)」の方が、値が有意に高かった。また、「一人でいたくて一人で行動する人 (8.95)」の場合よりも、「集団でいたくて集団行動する人 (12.03)」の方が、値が有意に高かった。

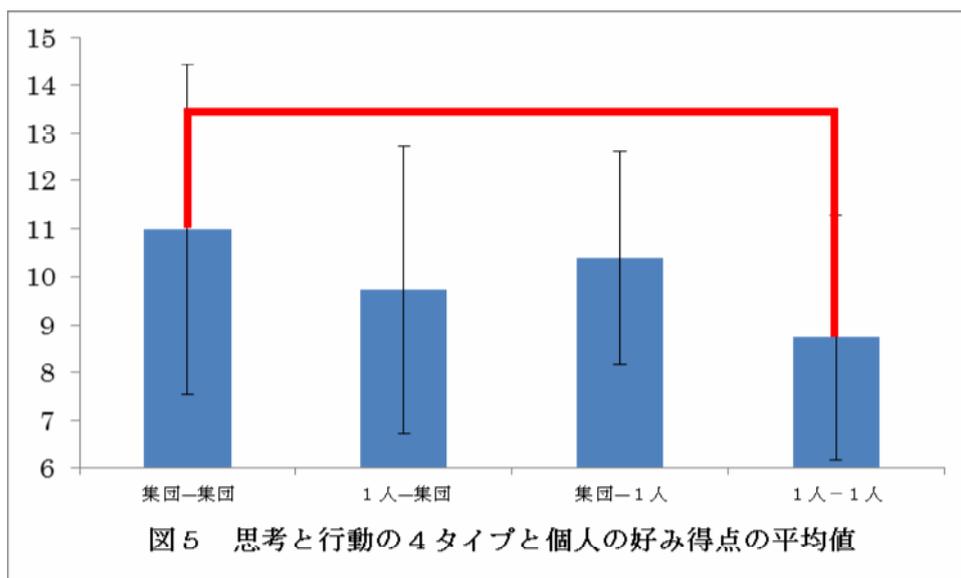


図中のバーは標準偏差を示し、線で結んだ対象間には統計的に有意な差があることを示す。

5) 思考と行動の4タイプ別個人の好み得点の比較

大学生の思考と行動の組み合わせ4タイプで個人の好み得点に違いがあるかを調べるため一元配置分散分析を行い、4タイプの平均値を図5に示した。

その結果、4タイプの主効果は有意であった ($F(3,159) = 5.401, p < .01$)。さらに4タイプ間での差を検討するために Scheffe 法による多重比較を行った。その結果、「一人でいたくて一人で行動する人(8.74)」の場合よりも、「集団でいたくて集団行動する人(10.98)」の方が、値が有意に高かった。



図中のバーは標準偏差を示し、線で結んだ対象間には統計的に有意な差があることを示す。

4 考察

1) 思考と行動の4タイプと私生活主義 (図1)

久世ら(1987)によると私生活主義とは「自分自身と身近な事象への関心・社会的事象への無関心」と「自分の感覚や実感の重視」を指すという。つまり、「自分自身を重要視して、身近な事象には無関心である」人は私生活主義の得点が高いと考える。こういった人々は思考と行動の4タイプにおいて「一人でいたい」という思考が回答に表れている。その結果、「集団でいたくて集団行動する」人の値は最も低く、「一人でいたくて一人で行動する」人の値が最も高くなった。集団でいたいと考え実際に集団にいる人は自分の感覚や実感の重要度が低く、周囲への関心が高いと考えられる。また、「一人でいたくて一人で行動する」人は、私生活主義得点のみ他の3タイプよりも高い数値を出している。この私生活主義が高いと「一人でいたくて一人で行動する」人になる傾向があるということが示唆された。

2) 思考と行動の4タイプと同調志向 (図2)

葛西ら(2010)によると同調行動とは「自分の意見を抑え、相手の意見に合わせること」と考えられる。これは「自分とは異なる意見・態度・行動を周囲から求められたとき、迷いながらも周りの意見・態度・行動に合わせてしまうメカニズム」と定義されている。この同調志向については、「自分の意志と実際の行動は伴わない」ことが結果に表れている。「一人でいたい」が「集団行動する」と「一人でいたくて一人で行動する」人を比較すると、「一人でいたい」が「集団行動する」人はこの同調志向が高いがために意図にそぐわない「集団行動する」という行動形式を取ってしまうのだらうと推測する。

3) 思考と行動の4タイプと他人との共有 (図4)

この尺度は大学生の日常生活で周りの人と同一行動しがちだと考えられる項目について、自分はどの程度当てはまるかということについて回答を求めたものである。またこの質問項目は他人とのかかわりに関連するものである。結果として、「集団でいたくて集団行動する」人の日常行動は「一人でいたくて集団行動する」「一人でいたくて一人で行動する」人よりも他人とかかわることに関する項目で他の人と同じようにふるまう事が多い。逆に集団でいたいということが、他人と多くのことを共有したいということなのだらう。

4) 思考と行動の4タイプと個人の好み (図5)

この尺度は大学生の日常生活で周りの人と同一行動しがちだと考えられる項目について、自分はどの程度当てはまるかということについて回答を求めたものである。またこの質問項目は個人的な好みに関する行動についてである。結果として「集団でいたくて集団行動する」人と「一人でいたくて一人で行動する」人に差が見られ、「集団でいたくて集団行動する」人の方が個人の好みによる項目で他の人と同じようにふるまう傾向がある。

5) まとめ

大学生の同調行動を調べる過程で、思考と行動との関係は4つのタイプに分けることが可能であり、タイプごとの個人の特性についてこれまで分析を試みた。

私生活主義以外の項目について「集団でいたくて集団行動する」人の値が高くなっていた。この「集団でいたくて集団行動する」人々は、同調において内心からの受容が認められる集団である。この人々の個人的な特性としては「同調志向」「他人との共有」「個人の好み」が高い傾向にあるといえる。

「一人でいたいが集団行動する」人々は、同調において、内面からの受容を伴わない外面だけの同調であるといえる。これを応諾と呼ぶが、この応諾は非同調から予想される罰に対する回避反応や、外面的同調に対して約束された報酬に動機づけられて生じる（心理学事典，1981）とされる。このタイプの人々は、「同調志向」が高い部分は受容が認められ内面的同調をする人々と共通しているが、「他人との共有」に関しては内面的同調をする人々よりも低い値を取っている。同調はするが、内面まで他人と共有することに重きをおかないことが、応諾する人々の特徴といえる。

「私生活主義」のみ他の3タイプよりも高い値を出している「一人でいたくて一人で行動する」人々は、同調において独立しているといえる。『心理学事典』（1981）によると、影響源の設定する規範や期待に左右されないものを独立と呼ぶ。これは同調と反対の方向へ変えるという反同調とは別の次元上に位置する。このような人々は周囲への関心よりも自分の感覚や関心を重要視していることから、独立に一致している。従って、独立出来る人は、他のタイプの人よりも、個人の特性として「私生活主義」が高いと言える。

今後の課題としては、同調行動の受容において、その受容の要因が「影響源への同一化によるもの」と「標準ないし規範の内在化によるもの」のどちらに属するのか明らかにしたい。それには調査に用いた項目に加えて「行動の判断基準」に関する質問を行うことで明らかに出来るのではないかと考える。

引用文献

- 坂西友秀 1995 いじめが被害者に及ぼす長期的な影響および被害者の自己認知と他の被害者認知の差 社会心理学研究 11(2). 105-115.
- 藤原正光 2006 同調行動志向尺度・個人行動志向尺度作成の試み(1) -大学生による小5時代の回想から- 文教大学教育学部紀要 40.1-9.
- 葛西真記子・松本麻里 2010 青年期の友人関係における同調行動-同調行動尺度の作成- 鳴門教育大学研究紀要 25.189-203.
- 小林知博・谷口淳一・木村昌紀・Leary, M. R 2006 所属欲求尺度 (the Need to Belong Scale) 邦訳版作成の試み. 日本心理学会大会発表論文集. 70.220.

- 久世敏雄・宮沢秀次・二宮克美・和田実・後藤宗理・浅野敬子・宗方比佐子・大野久・内山伊知郎・鄭曉齊 1987 現代青年の社会意識に関する研究 名古屋大学教育学部紀要 社会心理学科 .34.25 39.
- 森田洋司・清水賢二 1994 新訂版 いじめ 教室の病 金子書房
- 下中邦彦編 1981 新版 心理学事典 平凡社 630-631.
- 菅原健介 1984 自意識尺度 (self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究.55.184-188.
- 植田智・吉森讓 1990 日本版 MLAM 承認欲求尺度作成の試み 広島大学教育学部紀要 1.39.151-156.
- 横田晋大・中西大輔 2010 同調志向尺度の作成：規範的影響と情報的影響 広島修大論. 51.2. 23-36.

資料 1

各層別調査票配布数と回収数

	性別	学生数	調査票配布数	回収数
経済学部	男	1111	86	36
	女	532	32	19
文芸学部	男	490	32	18
	女	1322	85	44
法学部	男	697	47	21
	女	397	24	15
社会イノベー ション学部	男	513	37	12
	女	649	50	14
合計		5711	393	179

学部・性別不明 7 票 (学生数は 2012 年 5 月現在)

各学部学年別回答数

	性別	1 年	2 年	3 年	4 年	合計
経済学部	男	8	15	1	12	36
	女	8	1	6	4	19
文芸学部	男	7	6	2	2	17
	女	16	13	8	7	44
法学部	男	4	7	8	2	21
	女	2	3	6	4	15
社会イノベー ション学部	男	2	5	5	0	12
	女	8	4	1	1	14
合計		55	54	37	32	178

学部・学年・性別不明 8 票

資料2 各設問への回答比率

「大学生の日常生活に関する調査」

調査ご協力をお願い

私達は、量的社会調査実習の授業の一環として、大学生の日常生活に関する調査を行なっています。日常のさまざまな出来事に対する大学生の考え方や行動を明らかにしたいと考えています。回答していただいた結果は、全体的な傾向を調べるための統計分析のみに使用し、個人のデータをそのほかの目的に流用することはいっさいありません。また、調査結果は来春以降に公表を予定しています。結果の公表についての詳細は、後日学内掲示でお知らせいたします。ぜひともご協力をお願いいたします。

お答えいただきました回答用紙は、**10月10日(水)** までに、

1号館一階教務課の調査票回収ボックスまでお持ちください。

どうぞよろしくお願いいたします。

文芸学部コミュニケーション学科 3年 白井裕里子
文芸学部コミュニケーション学科 3年 原田 萌
文芸学部コミュニケーション学科 3年 横山 夕姫
文学研究科コミュニケーション学専攻 2年 大塚 薫
量的社会調査実習担当 鈴木 靖子
ysuzuki@seiyo.ac.jp

Q1. 以下に日常のさまざまな事柄が述べられています。**あなた自身**にどの程度あてはまるでしょうか。次の a、b、c、d のうちから最も近いものを一つ選んで をつけてください。

- a: あてはまる
- b: どちらかといえばあてはまる
- c: どちらかといえばあてはまらない
- d: あてはまらない

アルファベットの下の数値は回答比率(%)	a	b	c	d	無回答
1) 外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	3.2	12.9	30.6	53.2	0.0

2) 友人の間で SNS (人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の Web サイト) が流行っていたので、自分も始める。	24.7	36.0	17.7	21.5	0.0
3) 友人が染めたので、髪を染める。	2.2	4.3	17.2	76.3	0.0
4) 友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	3.2	4.8	3.8	88.2	0.0
5) 友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	10.8	28.0	22.0	39.2	0.0
6) 誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる。	36.0	36.0	15.6	12.4	0.0
7) 友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	16.7	40.3	29.6	13.4	0.0
8) 友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	8.1	21.5	29.0	41.4	0.0
9) 大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	10.2	31.7	19.9	38.2	0.0
10) 友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	5.4	12.4	22.0	60.2	0.0
11) 授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	8.1	23.1	29.0	39.8	0.0
12) 友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	1.1	1.6	9.7	87.6	0.0
13) 部活動・サークルなどで何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	13.4	33.9	31.2	21.0	0.5
14) 友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るともりはなかったが自分も見ると。	7.5	18.3	34.9	39.2	0.0

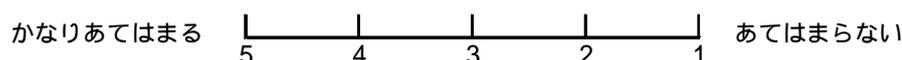
Q2. 以下の日常に関するさまざまな事柄について、**あなたの周りの人々**はどのように評価するでしょうか。次の a、b、c、d のうちから一つを選んで をつけてください。

- a: 大変重要である
- b: ある程度重要である
- c: あまり重要ではない
- d: 重要ではない

アルファベットの下の数値は回答比率 (%)	a	b	c	d	無回答
1) 外食の時、友人と同じ食べ物を、自分も頼む。	3.2	15.6	31.2	50.0	0.0
2) 友人の間で SNS (人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の Web サイト) が流行っていたので、自分も始める。	15.6	33.3	32.3	18.8	0.0
3) 友人が染めたので、髪を染める。	4.3	8.1	30.1	57.5	0.0
4) 友人がたばこを吸うので、たばこを吸い始める。	1.6	7.5	16.7	73.7	0.5
5) 友人がやっている、新しいアプリケーションを、スマートフォンにダウンロードする。	7.0	28.5	26.3	37.6	0.5
6) 誰かと歩く時、歩く速さが一緒にいる友人によって変わる。	19.9	43.0	21.5	15.6	0.0
7) 友人が数人で何かをしようとしているとき、自分一人だけ残ることを避ける。	22.0	36.0	27.4	14.5	0.0

8) 友人にあわせて部活動・サークルに入部する。	9.1	34.9	26.9	29.0	0.0
9) 大学の学園祭に友人が参加するので、自分も参加する。	10.8	38.7	29.0	21.5	0.0
10) 友人が、自動車教習所へ行くので、自分も行こうと思う。	7.0	16.7	29.0	47.3	0.0
11) 授業中、友人がノートを取り始めると、自分も書く。	10.2	26.9	29.0	33.3	0.5
12) 友人がピアスをつけるための穴を耳にあけたので、穴を耳にあける。	2.7	8.1	23.7	65.6	0.0
13) 部活動・サークルなどで何か決め事をする際、自分の考えよりも多数派の意見を支持する。	17.7	38.2	24.2	19.9	0.0
14) 友人が視聴しているテレビ番組なので、最初は見るつもりはなかったが自分も見ると。	9.1	26.9	35.5	28.5	0.0

Q3. 以下に他の人とのかわりに関するさまざまな事柄が述べられています。「5 かなりあてはまる」から「1 あてはまらない」のうち、あなた自身に最も近い数字を一つ選んでつけてください。



	数字の下は回答比率(%)					
	5	4	3	2	1	無回答
1) もし他の人が私を受け入れてくれそうになくても、気にしないようにしている。	12.9	25.3	30.1	19.4	11.8	0.5
2) 他の人に避けられたり拒まれたりしないように努めている。	16.7	43.0	21.5	12.9	5.9	0.0
3) 他の人が気にかけてくれるかどうか、めったに心配しない。	7.5	17.2	29.0	35.5	10.8	0.0
4) 困ったときに頼れる人がいると常に感じていたい。	21.0	33.3	23.1	14.5	7.0	1.1
5) 他の人に受け入れてもらいたい。	24.7	43.0	24.2	4.8	3.2	0.0
6) 一人であるのが好きではない。	4.8	8.1	19.9	25.8	41.4	0.0
7) 長い間友人と離れていても気にならない。	13.4	23.1	24.7	24.7	14.0	0.0
8) 人とのつながりを強く求めている。	12.9	28.0	37.6	18.3	2.7	0.5
9) 他の人の計画に自分が含まれていないと、とても気になる。	14.0	30.1	26.9	19.9	8.6	0.5
10) 他の人に受け入れられていないと感じると、すぐに傷ついてしまう。	13.4	18.3	32.3	24.2	11.8	0.0

Q4. 次のそれぞれの考えや意見について、あなたが実際にどう考えているかを「非常に賛成」「賛成」「賛成とも反対ともいえない」「反対」「非常に反対」のうちから一つを選んでつけてください。

- a: 非常に賛成
- b: 賛成
- c: 賛成とも反対ともいえない

d : 反対

e : 非常に反対

アルファベットの下の数値は回答比率(%)	a	b	c	d	e	無回答
1) 自分で納得いかないことはしたくない。	33.9	45.7	14.5	4.3	1.1	0.5
2) 何事も自分で確かめなければ気がすまない。	21.0	38.7	26.9	10.2	2.7	0.5
3) 自分の気持ちをいつわって行動するのはいやだ。	26.9	36.6	27.4	5.9	2.7	0.5
4) 世間の目を気にせず、自分のやりたいことをして楽しむ。	22.0	30.1	27.4	15.1	4.3	1.0
5) 型にはまらず、自分なりのやり方で物事に対処していく。	20.4	33.3	31.2	11.8	2.7	0.5
6) 他者に教えてもらって納得するのではなく、何事も自分で試してみるべきである。	18.3	41.4	27.4	10.8	1.6	0.5
7) 自分のやりたい事をする時、まわりの人が反対してもやり通すべきだ。	11.3	28.5	39.2	16.7	3.8	0.5
8) みんながやっても、自分が納得しないかぎりやらない。	14.0	29.0	36.0	17.2	3.2	0.5
9) 結果はどうあれ、自分で試してみることが大事である。	29.6	46.8	19.4	3.8	0.0	0.5
10) 流行を追いもとめるのではなく、自分なりのスタイルを大事にしたい。	25.3	41.4	25.3	6.5	0.5	1.0
11) だまっていると損をするような場合は、必ず発言する。	22.0	31.7	26.9	13.4	3.2	2.7

Q5 .以下のさまざまな事柄はあなた自身にどの程度あてはまるでしょうか。次の a、b、c、d、e のうちから最も近いものを一つ選んで をつけてください。

a : 当てはまる

b : 少し当てはまる

c : どちらでもない

d : あまり当てはまらない

e : 当てはまらない

アルファベットの下の数値は回答比率(%)	a	b	c	d	e	無回答
1) 外食に行くときには、情報誌や口コミを参考にする。	20.4	38.7	13.4	16.7	10.2	0.5
2) 自分の意見が他者と一致すると、とても安心する。	21.0	46.2	23.7	5.9	2.7	0.5
3) 見る映画を決めるときには、すでにその映画を見た人の評判を参考にする。	12.9	29.6	17.2	21.0	17.7	1.6
4) 授業を履修する際には、その授業の内容などの情報を他の人々から得て決める。	33.3	41.4	9.7	8.6	6.5	0.5
5) グループに従うくらいなら、むしろ独立した方がよい。	7.0	15.6	38.7	26.3	11.8	0.5
6) 周りの人々が信号無視をしていたら自分も渡っても安全だと思う。	10.2	18.3	25.8	24.2	20.4	1.0
7) 選挙など、政治的な判断をする際には親の意見に影響を受ける。	3.8	19.9	21.5	23.7	30.1	1.0
8) 自分の好きな服でなくても、流行に合わせた服を着てしまうだろう。	3.8	10.2	11.8	36.0	37.1	1.0
9) 私は、すぐに重要な決定をしなければならないとき、自分の判断の正しさを確認するために他人の行動を参考にする。	8.6	45.7	25.3	11.8	7.5	1.0
10) グループでまとまった意見は個人の意見よりも正しいことが多い。	10.2	17.7	36.6	26.9	7.5	1.0

Q6 .以下のさまざまな事柄はあなた自身にどの程度あてはまるでしょうか。次の a、b、c、d、e、f、g のうちから最も近いものを一つ選んで をつけてください。

- a : 非常にあてはまる
- b : あてはまる
- c : ややあてはまる
- d : どちらともいえない
- e : ややあてはまらない
- f : あてはまらない
- g : 全くあてはまらない

アルファベットの下の数値は回答比率(%)	a	b	c	d	e	f	g	無回答
1) 自分が他人にどう思われているのか気になる。	22.6	32.8	24.7	4.3	4.3	4.8	5.4	1.0
2) 世間体など気にならない。	4.8	9.1	12.4	19.4	22.6	18.8	11.8	1.0
3) 人に会う時、どんなふうにするまえば良いのか気になる。	14.5	30.6	26.9	11.3	8.6	3.8	2.7	1.6
4) 自分の発言を他人がどう受け取ったか気になる。	14.5	32.8	30.6	6.5	5.9	4.3	3.8	1.6
5) 人にみられていると、つかっこうをつけてしまう。	7.0	11.3	23.7	27.4	12.9	8.6	7.5	1.6
6) 自分の容姿を気にするほうだ。	17.7	29.0	23.1	12.4	9.1	5.9	1.6	1.0
7) 自分についてのうわさに関心がある。	16.7	25.3	28.5	11.3	6.5	6.5	4.3	1.0
8) 人前で何かするとき、自分のしぐさや姿が気になる。	14.5	29.6	23.7	12.9	9.1	5.9	3.2	1.0
9) 他人からの評価を考えながら行動する。	13.4	19.4	25.8	16.7	8.6	11.3	3.8	1.0
10) 初対面の人に、自分の印象を悪くしないように気づかう。	25.3	33.3	19.4	9.1	4.8	1.6	5.4	1.0
11) 人の目に映る自分の姿に心を配る。	16.1	23.1	26.9	13.4	8.6	5.9	2.2	3.7

Q7 .以下のさまざまな事柄はあなた自身にどの程度あてはまるでしょうか。次の a、b、c、d、e のうちから最も近いものを一つ選んで をつけてください。

- a : 非常にあてはまる
- b : わりとあてはまる
- c : ややあてはまる
- d : わりとあてはまらない
- e : 全くあてはまらない

アルファベットの下の数値は回答比率(%)	a	b	c	d	e	無回答
1) 私は、人を喜ばせるために、自分の意見や行動を変える。	13.4	30.6	27.4	21.5	5.9	1.0
2) 私は、人とうまくやったり好かれるために、人が望むように振舞おうとする傾向がある。	12.9	31.7	29.0	17.2	8.1	1.0
3) 私は、励ましがなければ自分の仕事を続けることが困難である。	8.6	19.4	23.1	30.1	17.7	1.0

4)私は、自分の考えがグループの意見と異なるとき、自分の考えを言いにくい。	16.1	26.3	23.7	20.4	12.4	1.0
5)私は、友人が自分を支持してくれることがわかっているときだけ、すすんで議論に加わる。	5.9	20.4	28.0	33.3	11.3	1.0
6)私は、人からよく思われるために自分を変えようとは思わない。	10.8	23.7	27.4	26.9	9.1	2.1
7)私は、自分の進む道を必ずしも自分で決めていないと思うことが、時々ある。	12.9	31.7	30.1	16.1	7.5	1.6
8)私は、パーティーのような社交の場では、他人のいやがることをしたり、言ったりしないように注意している。	37.1	39.2	17.7	4.3	0.5	1.0
9)私は、自分の行動を弁解したり、謝罪する必要があると感じることはめったにない。	3.8	10.2	15.1	39.8	29.6	1.5
10)私にとって、人との様々な交流の中で、“上手に”振舞うことは重要ではない。	2.2	10.8	24.2	41.9	18.8	2.1
11)私はたいてい、人が反対しても自分の立場を変えない。	3.8	23.1	31.2	30.6	9.1	2.1
12)重要人物に取り入るのは賢明である。	15.1	29.0	32.8	14.5	6.5	2.1
13)どれほどよい人間かで、友人の数が決まる。	7.5	12.9	16.1	34.4	27.4	1.6
14)最もうまい人の扱い方は、相手の考えに同意したり、相手の喜ぶようなことを言うことである。	5.4	17.7	28.5	30.6	16.1	1.6
15)たとえ自分のほうが正しいとわかっている場合でも、他人から見れば間違っていると思われるようなことは、人前ですべきではない。	15.6	25.3	34.4	17.7	5.4	1.6
16)人と接するときは、積極的であるより控え目なほうがよい。	3.8	14.0	35.5	31.7	12.9	2.1
17)私は、同じ状況であっても、相手が違えば異なる行動をとる。	16.7	45.2	22.6	9.7	3.8	2.1
18)誰かが私のことをあまり良く思っていないことがわかったら、次にその人に会ったとき、印象を良くするためにできるだけのことをする。	8.6	22.0	33.9	21.5	12.4	1.6
19)私に対してどんな批判があろうと、私はそれを受け入れることができる。	8.6	21.5	35.5	21.5	11.3	1.6
20)私は、どうすべきかをサイコロで決めたいと思うことがよくある。	9.1	12.4	15.1	21.5	40.3	1.6

Q8 . あなたの普段の行動は、次のどちらに近いですか。

グループで行動することが多い 46.8% ひとりで行動することが多い 40.9%

Q9 . あなたの性別を教えてください。

男性 47.8% 女性 51.6%

Q10 . あなたの所属と学年を教えてください。

学部 年

ご協力ありがとうございました。

執筆者一覧

執筆者

- 大塚 薫 成城大学大学院文学研究科コミュニケーション学専攻博士課程前期2年
白井裕里子 成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科3年
原田 萌 成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科3年
横山 夕姫 成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科3年

実習及び執筆指導

- 鈴木 靖子 成城大学文芸学部非常勤講師
石川ちなつ 成城大学大学院社会イノベーション研究科社会イノベーション専攻
博士課程前期2年

編 集	鈴木 靖子 (担当教員) 石川ちなつ (T. A.)
発行者	成城大学文芸学部社会調査士資格課程運営委員会 東京都世田谷区成城 6 - 1 - 20 http://www.seijo.ac.jp/falit/orig/license/tyousashi.html
印刷	2013 年 3 月
発行日	2013 年 3 月